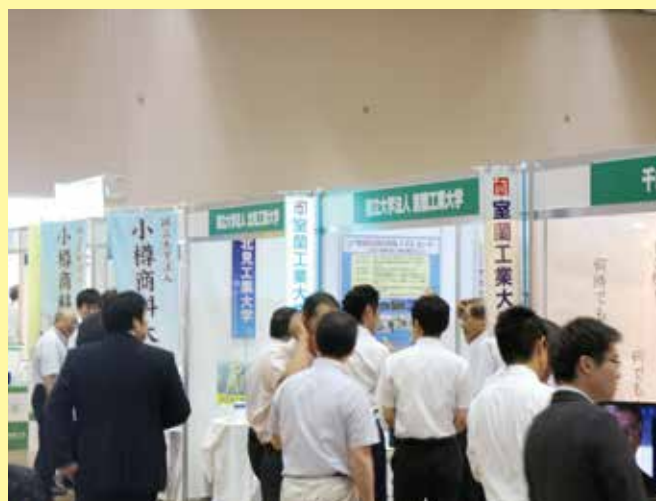




室蘭工業大学
MURORAN INSTITUTE OF TECHNOLOGY

平成26年度 センターニュース



2015.5 No.28

室蘭工業大学

地域共同研究開発センター

— 目 次 —

新任のご挨拶	1
域共同研究開発センター長 特任教授 那須 守	
センター長 退任のご挨拶	3
鴨田 秀一	
1. 産学連携体制(平成26年度)	4
2. 事業実績	5
3. 事業活動	10
4. 地域共同研究開発センター研究協力会	
役員名簿	33
平成26年度加入企業	34
5. 資料	
新聞記事	40

表紙写真

- 上左：第4回MOT(技術経営)実践講座(17頁)
- 上右：北洋銀行ものづくりテクノフェア2014(28頁)
- 下左：胆振次世代革新塾(テクノアゴラにて)(18頁)
- 下右：ものづくり技術セミナー高度技術研修(札幌会場)(21頁)

新任のご挨拶



地域共同研究開発センター
センター長(特任教授) 那須 守

平成27年4月1日付けで、地域共同研究開発センターのセンター長に着任いたしました。歴代のセンター長の業績を拝察しますと、その重責に改めて身が引き締まる思いです。これからは、本学における研究・教育の発展と地域における企業や市民の活性化に向け、産学官金連携の一層の充実・強化に尽力する所存であります。

私は本学の建築工学科を卒業いたしました。その後、建設会社の研究開発部門において、建築の構造解析・構造設計、閉鎖性水域・運河の浄化、廃棄物のリサイクル、高レベル放射性廃棄物の保管、生物多様性の保全、建物緑化、環境共生都市デザイン、歩きたくなる街づくり、都市環境のQOL (Quality Of Life) 評価ほか各種の研究開発およびプロジェクト案件への展開に携わってきました。

これらの業務で得た経験や知識、さらには産学官共同研究、企業間交流、学協会活動など色々な場面で構築してきた研究者・技術者・ビジネスマンとの関係を、本センターの業務に役立てていくように致します。そうすることで地域社会の課題をチャンスに転じる人材、技術、イノベーション、ビジネス、及びこれらに関連づける社会的枠組みの創出を支援したいと考えております。

これからの大学と社会との関係では、都市経済学者のフロリダは著書「クリエイティブ都市論(2008)」において、創造性に対する人々の関心が高くなる時代においては、コミュニティの中心として大学のもつ意義が新たに重要になると述べています。同様な事が我国においても大学の社会貢献として言われており、科学技術・学術審議会の検討を踏まえると、今後は単なる経済の活性化を超えて、地域コミュニティや福祉・環境問題といったより広い意味で社会全体の発展に寄与する取り組みが必要になるだろうと考えられます。

翻って我国の社会経済を見ますと、人口減少・超高齢社会を迎え、地域の暮らしやすさを維持し続けていくためには、コミュニティにおいて生活の共同化や相互扶助を実現することが求められています。近年、その対応として「コミュニティ経済」という社会経済的枠組みが重要な役割を担うのではないかと考えられています。しかし展開がまだ少なく、大学とNPO・自治体(福祉・環境・まちづくり)とのコラボレーションが見られるようにはなってはいますが、活動の担い手や支援体制、そしてなによりも経済活動を持続するための技術の創出・育成が必要です。

今後は、前センター長から引き継いだ課題、特に研究シーズと社会・産業ニーズとの乖離、それに起因すると考えられる共同研究・受託研究の減少には最優先で取り組んで行きます。一方、中長期的には、本学が蓄積してきた「知」や「技術」、さらには道内を中心とした他大学や地元の企業・行政・金融そし

てコミュニティとの連携によって、技術を基盤としたコミュニティ経済といったソーシャルビジネス系イノベーションの創生にも取り組みたいと考えています。そうすることで地域社会と密着した大学の社会貢献の新しいモデル、つまり「室工大モデル」を社会に発信できればと考えています。全力でこれらの取り組みを実行していく所存でありますので、関係各位の皆様のご支援をよろしくお願い申し上げます。

センター長 退任のご挨拶

地域共同研究開発センター
前センター長 鴨田 秀一

地域共同研究開発センター（CRD センター）の専任教員として4年間任にあたり、この3月末で退職することになりました。この間、学内・外の多くの皆様にご支援、ご協力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

さて、CRD センターは、本学と地域・産業とをつなぐリエゾンとして、昭和63年に設立され、27年が経ちました。これまで、教員の研究成果や取組みを地域・産業界で活用することを促進し、一方では、地域・産業からのニーズと教員シーズのマッチングを図り、また、教員に有益な情報等を提供することを大きなミッションとして活動してきました。具体的な業務としては、共同研究の推進、外部資金の獲得支援、地域や企業訪問によるニーズ探索、技術相談対応、技術交流会・セミナー・研修会等の開催、異業種グループへの参画と情報収集、講義等による人材育成、展示会への出展、シーズ集等による広報など多岐にわたっています。

しかし、地域・企業ニーズに関わる教員が少数に限られていることと、教員からの情報収集および教員への情報発信が足りないということから、平成23年10月に、連携担当理事（副学長）を本部長とする「社会連携統括本部」が設立されました。3年を経過し、情報の共有化、社会貢献に対する意識の高まりなど、幾つかの成果が見られていますが、まだ目標には遠いと言わざるを得ません。例えば、競争的外部資金の獲得については、CRD センターが中心となって公募説明会、学内LAN等による案内をしているものの、申請件数は増えていませんし、依然として応募教員は偏在化しています。また、共同研究・受託研究の件数を見ても、平成17年をピークに、年々減ってきており、「社会連携統括本部」が設立して以降も減少傾向は変わらないのが現状です。共同研究・受託研究等の件数は、当然、国内、道内の経済状況にも左右されますが、教員の研究シーズと社会・産業ニーズがマッチングせず、それが増々乖離する傾向にあることも原因かと考えられます。後任センター長をはじめとしたセンター員による新たな方策、仕組みづくりに期待したいと思います。

地方創生の核となる大学づくりが求められている中、地方の単科大学として特色を出すには、当然、先進的、先端的な研究を推し進めることも重要ですが、一方では、地域・産業のニーズに即応できる教員が多く存在することも必要です。そのためには、これまで以上に外部機関との連携、つながりを強くしていかなければならず、そのリエゾン役を担っているCRD センターの役割は増々重要となってきていますが、残念ながら、センターの人員は年々減少しています。社会連携統括本部の機能を有機的に使い、また、外部センター協力員など豊富で多彩な外部人的ネットワークを最大限活かすしかありません。関係する皆様のご支援、ご協力を切にお願いして、退任にあたっての挨拶とさせていただきます。

1. 産学連携体制(平成26年度)

【センター長】

那須 守 (くらし環境系領域 特任教授) (平成27年度から)
嶋田 秀一 (もの創造系領域 特任教授) (平成27年3月31日退職)

【准教授】

古屋 温美 (くらし環境系領域)

【技術補佐員】

黒島 利一 (平成27年3月31日退職)

【事務補佐員】

齊藤 美幸

【専任コーディネーター】

太田 一夫
伊庭野 洋 (学外協力員コーディネーター)

【名誉教授・特任教授・産学官連携協力員】

桃野 正

【兼任教員】

中津川 誠 くらし環境系領域 教授
中野 博人 くらし環境系領域 教授
青柳 学 もの創造系領域 教授
風間 俊治 もの創造系領域 教授
清水 一道 もの創造系領域 教授

【産学官連携支援室】

安澤 典男 (公財)室蘭テクノセンター 統括アドバイザー
村上 孝志 (公財)室蘭テクノセンター ビジネスコーディネーター

【客員教授】

三上 浩 三井住友建設(株) 技術開発センター 副センター長
川瀬 良司 (株)構研エンジニアリング 常務取締役
木口 昭二 近畿大学 理工学部 機械工学科 教授
佐藤 完二 SEE-I 技術研究所 所長
東川 敏文 経済産業省 北海道経済産業局 産業部長
山中 芳朗 (社)北海道食産業総合振興機構 フード特区機構 研究開発部 部長
関川 純人 室蘭市 経済部 産業振興課 主幹(工業・企業誘致)
永松 俊雄 崇城大学 教授
城森 明 (有)ネオサイエンス 社長
吉岡 隆幸 (株)ディー・ビーシー システム研究所 研究部長
北沢 祥一 (株)国際電気通信基礎技術研究所 波動工学研究所
三井 良一 前 JST 知的財産センター 特許主任調査員

【客員准教授】

佐川 孝広 日鉄住金セメント(株) 製品開発部 品質管理グループリーダー

【知的財産本部】

宮澤 邦夫 特任教授・統括マネージャー
川高 寛明 知的財産コーディネーター

2. 事業実績(平成26年度)

2-1. 共同研究プロジェクト(客員教授プロジェクト研究)

※研究代表者

NO	研究題目	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	使用済み核燃料輸送・貯蔵容器に使用される鋳鉄材料の開発	※もの創造系領域 教授 清水 一道	近畿大学 理工学部 機械工学科 教授 木口 昭二
2	有珠山の噴火予知と地熱エネルギー開発に関する実践的研究:CSAMT法電磁探査による有珠山深部の地殻構造探査	※くらし環境系領域 准教授 後藤 芳彦 くらし環境系領域 准教授 有村 幹治	(有)ネオサイエンス 社長 城森 明
3	環境負荷を低減する汎用型高炉セメントの創生ーコンクリートの強度発現性と耐久性の評価ー	※くらし環境系領域 教授 濱 幸雄 くらし環境系領域 准教授 菅田 紀之 くらし環境系領域 助教 岸本 嘉彦	日鉄住金セメント(株) 製品開発部 品質管理課長 佐川 孝広
4	積雪寒冷地域における道路構造物の高度化・長寿命化に関する研究	※くらし環境系領域 准教授 小室 雅人 くらし環境系領域 講師 栗橋 祐介	(株)構研エンジニアリング 常務取締役 川瀬 良司
5	無人航空機搭載用可変指向アンテナの研究	※もの創造系領域 教授 上羽 正純	(株)国際電気通信基礎技術研究所 波動工学研究所 主任研究員 北沢 祥一
6	有機繊維シートを用いた既設鋼構造物の補修・補強工法の開発に関する実験的研究	※くらし環境系領域 講師 栗橋 祐介 くらし環境系領域 准教授 小室 雅人	三井住友建設(株) 技術開発センター 三上 浩
7	航空機ジェットエンジン耐酸化コーティング手法としてのアルミニウム・ニッケル複合めっきの開発	※もの創造系領域 准教授 佐伯 功	(株)ディ・ビー・シー・システム 研究所 研究部長 吉岡 隆幸

2-2. 民間等との共同研究

NO	大学側研究代表者	件数				
			5	もの創造系領域	教授 世利 修美	2
1	くらし環境系領域 教授 土屋 勉	1	6	くらし環境系領域	教授 濱 幸雄	4
2	もの創造系領域 教授 清水 一道	13	7	もの創造系領域	講師 松本 大樹	1
3	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 特任教授 香山 晃	1	8	もの創造系領域	教授 相津 佳永	3
4	しくみ情報系領域 准教授 渡邊 真也	2	9	CRDセンター	准教授 古屋 温美	4

10	航空宇宙機システム研究センター 教授 東野 和幸	4	23	もの創造系領域	教授 風間 俊治	1	
			24	もの創造系領域	准教授 花島 直彦	1	
11	もの創造系領域	教授 河合 秀樹	2	25	しくみ情報系領域	准教授 梶原 秀一	1
12	もの創造系領域	准教授 境 昌宏	2	26	もの創造系領域	講師 長船 康裕	1
13	しくみ情報系領域	教授 福田 永	1	27	もの創造系領域	准教授 廣田 光智	1
14	ひと文化系領域	准教授 上村 浩信	1	28	くらし環境系領域	教授 中野 博人	1
15	もの創造系領域	教授 佐伯 功	1	29	くらし環境系領域	教授 溝口 光男	1
16	もの創造系領域	教授 上羽 正純	1	30	情報メディア教育センター 准教授 桑田 喜隆	1	
17	しくみ情報系領域	教授 永野 宏治	1				
18	くらし環境系領域	教授 大平 勇一	1	31	もの創造系領域	教授 樋口 健	1
19	くらし環境系領域	准教授 小室 雅人	7	32	もの創造系領域	教授 斎藤 英之	1
20	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 准教授 朴 峻秀	1	33	しくみ情報系領域	教授 岸上 順一	1	
			34	もの創造系領域	助教 河内 邦夫	1	
21	くらし環境系領域	助教 馬渡 康輝	1	35	しくみ情報系領域	准教授 渡邊 浩太	1
22	もの創造系領域	准教授 岸本 弘立	1	36	くらし環境系領域	講師 栗橋 祐介	2

2-3. 民間機関等からの受託研究

NO	大学側研究代表者	件数					
1	もの創造系領域	教授 清水 一道	3	8	もの創造系領域	教授 樋口 健	2
2	OASIS(環境・エネルギーシステム材料研究機構) 特任教授 香山 晃	4	9	もの創造系領域	教授 河合 秀樹	1	
			10	しくみ情報系領域	准教授 川口 秀樹	1	
3	くらし環境系領域	助教 武田 明純	1	11	くらし環境系領域	准教授 吉田 英樹	1
4	もの創造系領域	准教授 柴山 義行	1	12	くらし環境系領域	准教授 徳楽 清孝	1
5	もの創造系領域	講師 松本 大樹	1	13	くらし環境系領域	准教授 山中 真也	1
6	もの創造系領域	教授 世利 修美	1	14	しくみ情報系領域	教授 塩谷 浩之	1
7	くらし環境系領域	教授 中津川 誠	1	15	しくみ情報系領域	教授 佐藤 孝紀	1
				16	くらし環境系領域	教授 上道 芳夫	1

2-4. プレ共同研究

NO	研究題目	大学側研究組織	民間機関等研究組織
1	音響計測によるコンクリート壁面高速診断システムの開発	※しくみ情報系領域 教授 板倉 賢一	(株)メイセイ・エンジニアリング 研究開発担当 田中 秀典
2	小型無人ヘリコプターを用いた空中電磁探査の実用化	※しくみ情報系領域 准教授 後藤 芳彦	(有)ネオサイエンス 社長 城森 明

3	特定の amino 酸残基と反応する試薬の開発	※くらし環境系領域 教授 庭山 聡美	和光純薬(株) 臨床検査薬事業部 臨床検査薬開発本部 臨床検査薬研究所・主任研究員 黒野 定
4	鋳造シミュレーションおよび 3D プリンタを用いた鋳型製造技術の開発	※もの創造系領域 教授 清水 一道 工学研究科 博士後期課程 物質工学専攻 船曳 崇史	伸和機型(株) 取締役社長 鎌田 尚幸
5	炭化タングステン鑄ぐるみ耐摩耗鑄鋼材料の開発	※もの創造系領域 教授 清水 一道 工学研究科 博士後期課程 物質工学専攻 楠本 賢太	(株)北海道特殊鑄鋼 代表取締役 伊藤 淳
6	表面弾性波センサーを用いた乳房炎早期検出に関する研究	※しくみ情報系領域 教授 福田 永	今井動物病院 院長 獣医師 今井 哲朗

2-5. 平成26年度研究シーズ出展助成事業

① 出展研究シーズ名：超音波アクチュエーションと非接触搬送

申請教員：しくみ情報系領域 教授 青柳 学

展示会名：TECNO-FRONTIER 2014 第23回モーションエンジニアリング展

開催場所：東京ビッグサイト（有明・東京国際展示場）東1～3ホール

開催期間：2014年7月23日（水）～25日（金）

入場者数：11,633名

出展内容：日本機械学会機素潤滑設計部門アクチュエータ技術企画委員会の出展企画に参加し、研究成果物の実働展示を行った。1小間の展示スペースにおいて次のものを展示し実演を行った。

1. 超音波浮揚2次元搬送装置
2. 薄型単相矩形型リニア超音波モータステージ
3. 減衰進行波を用いたパイプ内音響浮揚装置
4. ジャイロモーメント・モータを応用したアミューズメント・トイ

小間の間仕切り板には5枚のポスターを掲示した。多くの方に展示物を見て頂くことができた。

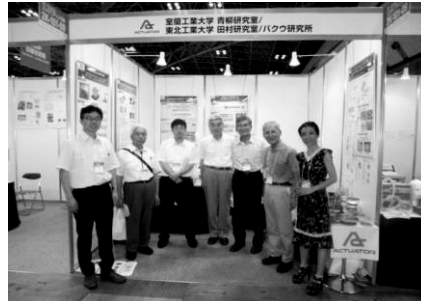
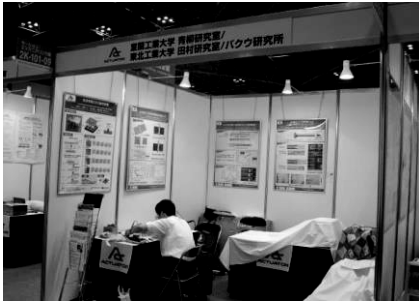
本展示会には期間中11,633名の来場者があった。事前に用意した資料（約500部）は全て配布された。当方の出展スペースにも多くの方々が訪れ、説明担当者3～4名はほとんど休みなく来場者に対応した。自動車メーカー1社およびコンサルタント1名より、積極的な技術相談および協力依頼があった。本展示会の来場者の42.0%が開発設計・研究に従事しており、研究シーズの発信に効果的であった。この度の展示会で多くの来場者に興味を持って頂き、本学の研究シーズを広く紹介することができた。よって、目的は十分に達成されたと思われる。日本機械学会機素潤滑設計部門アクチュエータ技術企画委員会の出展企画に参加し、研究成果物の実働展示を行った。1小間の展示スペースにおいて次のものを展示し実演を行った。

1. 超音波浮揚2次元搬送装置
2. 薄型単相矩形型リニア超音波モータステージ
3. 減衰進行波を用いたパイプ内音響浮揚装置
4. ジャイロモーメント・モータを応用したアミューズメント・トイ

小間の間仕切り板には5枚のポスターを掲示した。多くの方に展示物を見て頂くことができた。

本展示会には期間中11,633名の来場者があった。事前に用意した資料（約500部）は全て配布された。

当方の出展スペースにも多くの方々が訪れ、説明担当者3~4名はほとんど休みなく来場者に対応した。自動車メーカー1社およびコンサルタント1名より、積極的な技術相談および協力依頼があった。本展示会の来場者の42.0%が開発設計・研究に従事しており、研究シーズの発信に効果的であった。この度の展示会で多くの来場者に興味を持って頂き、本学の研究シーズを広く紹介することができた。よって、目的は十分に達成されたと思われる。

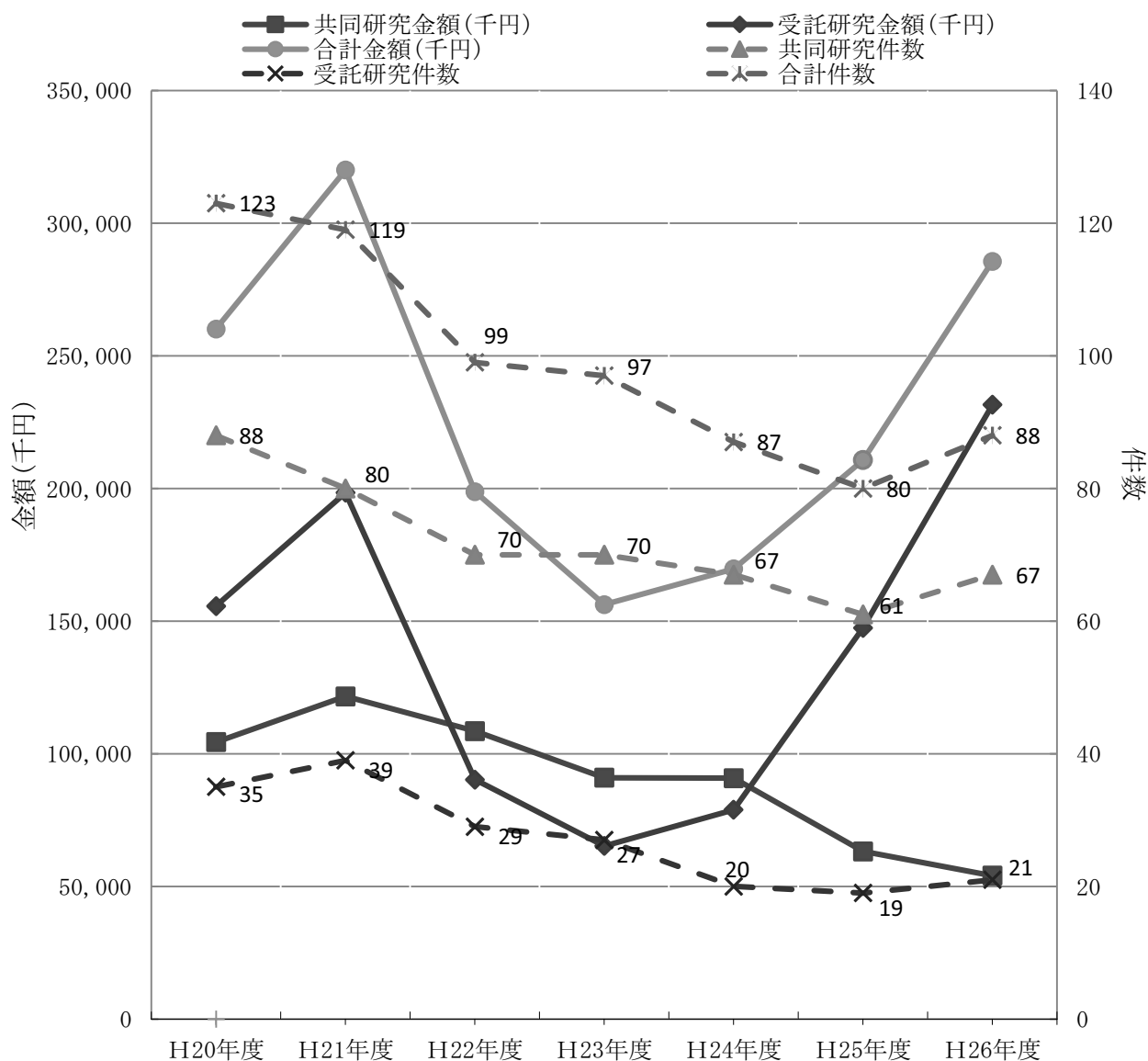


2-6. 技術相談

①33件

「民間等との共同研究」及び「受託研究」の件数と研究経費の推移

	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度	H25年度	H26年度
共同研究金額(千円)	104,386	121,628	108,559	90,961	90,817	63,202	54,051
受託研究金額(千円)	155,676	198,380	90,219	65,243	78,841	147,472	231,542
合計金額(千円)	260,062	320,008	198,778	156,204	169,658	210,674	285,593
共同研究件数	88	80	70	70	67	61	67
受託研究件数	35	39	29	27	20	19	21
合計件数	123	119	99	97	87	80	88



「民間等との共同研究」及び「受託研究」の件数と研究経費の推移

3. 事業活動(平成 26 年度)

1. 研究の活性化、共同研究の推進(15 件)(12 頁)

- (1)平成 26 年度ブレ共同研究(審査)(6 件)
- (2)平成 27 年度共同研究プロジェクト(公募、審査)(8 件)
- (3)新日鐵住金(株) 棒線事業部 室蘭製鐵所との共同研究会議(10 回)
- (4)(株)電制との共同研究会議(5 回)
- (5)(株)北央技研との共同研究会議(4 回)
- (6)ダイキン工業(株)との共同研究会議
- (7)札幌医大との共同研究会議(4 回)
- (8)今井動物病院との共同研究会議(2 回)
- (9)(株)コガネイとの共同研究打合せ(2 回)
- (10)タテヤマアドバンス(株)との共同研究会議(6 回)
- (11)創作工房せきね塩製造打合せ(4 回)
- (12)ImPACTd 事業検討会(3 回)
- (13)技術相談(33 回)
- (14)研究協力会役員会および総会
- (15)第 26 回国立大学法人共同研究センター長等会議

2. 外部資金獲得、研究シーズの紹介・活動(5 件)(16 頁)

- (1)JST A-STEP の申請に対するコーディネート(11 回)
- (2)JST A-STEP 事業説明会
- (3)JST シーズ説明会(発表会)(3 回)
- (4)NEDO 説明会
- (5)企業訪問(58 回)

3. 人材教育(4 件)(17 頁)

- (1)MOT(技術経営)実践講座(4 回)
- (2)スーパー連携大学院
- (3)出前講義(3 回)
- (4)胆振次世代経営革新塾(10 回)

4. セミナー、研修会、交流会の開催(6 件)(20 頁)

- (1)CRD セミナー(5 回)
- (2)高度技術研修
- (3)第 26 回フロンティア技術検討会
- (4)北のものづくり総合技術交流会(出前講座)(2 回)
- (5)「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」出版記念講演会
- (6)デジタルエンジニアリング人材育成フォーラム
- (7)第 7 回道内電気計装エンジニアリング研修会

5. 他機関との連携活動(14 件)(23 頁)

- (1)HiNT 協議会・連絡会(6 回)
- (2)産学交流プラザ「創造」(13 回)
- (3)蘭参会(名刺交換会)(4 回)
- (4)(地独)北海道立総合研究機構との包括連携に関する会議および連携協定調印式(4 回)
- (5)北海道科学技術審議会に関する会議(3 回)
- (6)コラボ産学官(総会、講演会)(2 回)
- (7)産学官連携プラットフォーム in 釧路
- (8)全道産学官ネットワーク推進協議会
- (9)道科技審 室蘭地域懇談会
- (10)北海道防災・減災リレーシンポジウム
- (11)技術士会(2 回)

- (12) 客員教授による地域共同研究開発センター活動支援会議(2回)
- (13) コーディネーター会議(1回/2ヶ月)(6回)および室蘭テクノセンター理事会
- (14) 客員教授(知的財産関係)との会議(9回)

6. 各種展示会への出展(7件)(28頁)

- (1) 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2014
- (2) ビジネスEXPO「第28回北海道 技術・ビジネス交流会」
同時開催 シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関
- (3) イノベーション・ジャパン(～大学見本市&ビジネスマッチング～)
- (4) 第4回エコ・リサイクル型ものづくりシンポジウム【パネル展示等】
- (5) 第6回北海道地区高専テクノ・イノベーションフォーラム
- (6) メッセナゴヤ 2014
- (7) 展示会出展助成事業

7. 他機関主催事業への参加(ニーズ・情報の収集活動)(4件)(31頁)

- (1) 中小企業家同友会(3回)
- (2) 中小規模材料加工実践技術経営研究会・JZK(3回)
- (3) (地独)北海道立総合研究機構 工業試験場 成果発表会
- (4) 北海道医療福祉産業研究会

8. 広報(2件)(32頁)

- (1) 定期刊行物(平成27年3月)(2件)
- (2) 学内講義棟での展示(16名/2ヶ月)

1. 研究の活性化、共同研究の推進(15件)

(1)平成26年度プレ共同研究(審査)(6件)

- ①炭化タングステン鑄ぐるみ耐摩耗鑄鋼材料の開発(15:20～15:40)

もの創造系領域 教授 清水 一道

日 時：平成26年9月3日(水)

- ②鑄造シミュレーションおよび3Dプリンタを用いた鑄型製造技術の開発(15:40～16:00)

もの創造系領域 教授 清水 一道

- ③音響計測によるコンクリート壁面高速診断システムの開発(16:00～16:20)

しくみ情報系領域 教授 板倉 賢一

- ④特定のアミノ酸残基と反応する試薬の開発(14:00～14:30)

くらし環境系領域 教授 庭山 聡美

日 時：平成26年9月4日(木)

- ⑤表面弾性波センサーを用いた乳房炎早期検出に関する研究(14:30～15:00)

しくみ情報系領域 教授 福田 永

- ⑥小型無人ヘリコプターを用いた空中電磁探査の実用化(10:00～10:20)

くらし環境系領域 准教授 後藤 芳彦

日 時：平成26年9月19日(金)

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室



(2)平成27年度共同研究プロジェクト(公募、審査)(8件)

- ①有珠山の噴火予知と地熱エネルギー開発に関する実践的研究：CSAMT法電磁探査による有珠山深部の地殻構造探査(13:30～14:00)

くらし環境系領域 准教授 後藤 芳彦

- ②音響計測によるコンクリート壁面高速診断システムの開発；板倉教授(14:00～14:30)

しくみ情報系領域 教授 板倉 賢一

- ③SiC/SiCターゲット用新製造プロセスの検討(14:30～15:00)

もの創造系領域 准教授 朴 峻秀

- ④航空機ジェットエンジン耐酸化コーティング手法としてのアルミニウム・ニッケル複合めっきの開発(15:00～15:30)

もの創造系領域 教授 佐伯 功

- ⑤積雪寒冷地域における道路構造物の高度化・長寿命化に関する研究(15:30～16:00)

くらし環境系領域 准教授 小室 雅人

- ⑥リチウムイオン内包フラーレン誘導体の生物活性に関する研究(16:00～16:30)

くらし環境系領域 教授 中野 博人

- ⑦有機繊維シートを用いた既設鋼構造物の補修・補強工法の開発に関する実験的研究(16:30～17:00)

くらし環境系領域 講師 栗橋 祐介

日 時：平成27年3月2日(月)

⑧高効率バイオコークスの加炭材としての適応方法の研究開発(13:00～13:30)

もの創造系領域 教授 清水 一道

日 時：平成27年3月5日(木)

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

(3)新日鐵住金(株) 棒線事業部 室蘭製鐵所との共同研究会議(10回)

①日 時：平成26年4月22日(火) 14:00～16:00

参加者：5名(花島先生 他)

②日 時：平成26年5月20日(火) 14:30～15:30

参加者：6名(花島先生 他)

③日 時：平成26年6月24日(火) 14:40～16:00

参加者：7名(花島先生 他)

④日 時：平成26年7月29日(火) 13:30～15:00

参加者：6名(花島先生 他)

⑤日 時：平成26年10月2日(木) 14:30～16:00

参加者：6名(花島先生 他)

⑥日 時：平成26年10月21日(火) 14:30～16:00

参加者：7名(花島先生 他)

⑦日 時：平成26年11月18日(火) 14:00～15:30

参加者：6名(花島先生 他)

⑧日 時：平成26年12月9日(火) 14:00～15:30

参加者：6名(花島先生 他)

⑨日 時：平成27年1月13日(火) 14:00～15:30

参加者：7名(花島先生 他)

⑩日 時：平成27年2月24日(火) 14:00～15:30

参加者：7名(花島先生 他)

場 所：室蘭工業大学 A-211

(4)(株)電制との共同研究会議(5回)

①日 時：平成26年5月8日(木) 15:00～17:30

参加者：8名(相津先生 他)

②日 時：平成26年7月31日(木) 15:00～17:00

参加者：5名(相津先生 他)

③日 時：平成26年10月2日(木) 15:00～17:00

参加者：6名(相津先生 他)

④日 時：平成26年12月4日(木) 15:00～17:00

参加者：6名(相津先生 他)

⑤日 時：平成27年2月9日(月) 15:00～17:00

参加者：6名(花島先生 他)

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

(5)(株)北央技研との共同研究会議(4回)

①日 時：平成26年5月14日(水) 13:00～14:30

場 所：室蘭工業大学 A-211

参加者：8名(花島先生 他)

②日 時：平成26年6月10日(火) 15:00 ～ 17:00

参加者：6名(花島先生 他)

③日 時：平成26年7月16日(水) 13:30 ～ 15:30

参加者：4名(花島先生 他)

④日 時：平成26年12月26日(金) 13:30 ～ 16:00

参加者：4名(花島先生 他)

場 所：室蘭工業大学 E-101

(6) ダイキン工業(株)との共同研究会議

日 時：平成26年6月11日(水) 13:30 ～ 16:00

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

参加者：4名(世利先生 他)

(7) 札幌医大との共同研究会議(4回)

①日 時：平成26年4月23日(水) 15:00 ～ 17:30

参加者：福田先生 他

②日 時：平成26年8月29日(金) 15:00 ～ 17:30

参加者：福田先生 他

③日 時：平成26年12月29日(月) 15:30 ～ 17:30

参加者：福田先生 他

④日 時：平成27年1月23日(金) 15:00 ～ 17:30

参加者：福田先生 他

場 所：R&Bパーク札幌大通サテライト(札幌市)

(8) 今井動物病院との共同研究会議(2回)

①日 時：平成26年4月14日(月) 13:30 ～ 17:30

場 所：R&Bパーク札幌大通りサテライト(HiNT)(札幌市)

参加者：5名(福田先生 他)

②日 時：平成26年6月25日(水) 15:30 ～ 17:00

場 所：室蘭工業大学 Y棟

参加者：4名(福田先生 他)

(9) (株)コガネイとの共同研究打合せ(2回)

①日 時：平成26年10月2日(木) 13:30 ～ 15:30

参加者：6名(馬渡先生 他)

②日 時：平成27年1月14日(水) 13:00 ～ 15:30

参加者：6名(馬渡先生 他)

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

(10) タテヤマアドバンス(株)との共同研究会議(6回)

①日 時：平成26年7月30日(水) 11:00 ～ 14:00

参加者：4名(溝口先生 他)

②日 時：平成26年10月9日(木) 10:00 ～ 12:00

参加者：6名(溝口先生 他)

③日 時：平成26年11月20日(木) 10:00 ～ 12:00

参加者：8名(溝口先生 他)

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

- ④日 時：平成26年11月20日(木) 13:30～16:30、21日(金) 13:30～16:30(説明会)
場 所：室蘭工業大学 講義棟 ピロティ
参加者：8名(溝口先生 他)
- ⑤日 時：平成27年1月30日(金) 15:00～17:00(審査会)
場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室
参加者：8名(溝口先生 他)
- ⑥日 時：平成27年2月18日(水) 12:15～(表彰式)
場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室
参加者：12名(溝口先生 他)

(11) 創作工房せきね塩製造打合せ(4回)

- ①日 時：平成26年12月2日(火) 10:00～15:30
参加者：6名(山中先生 他)
- ②日 時：平成26年12月25日(木) 10:00～15:30
参加者：6名(山中先生 他)
- ③日 時：平成27年2月13日(金) 10:00～
参加者：6名(桃野先生、山中先生)
- ④日 時：平成27年3月20日(金) 10:00～
参加者：6名(桃野先生、山中先生)
- 場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

(12) ImPACT 事業検討会(3回)

- ①日 時：平成26年8月27日(水) 13:00～15:00
参加者：4名
- ②日 時：平成26年10月10日(金) 13:00～15:00
参加者：6名
- ③日 時：平成26年12月11日(木) 13:00～15:00
参加者：6名
- 場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

(13) 技術相談(他 32回)

- ①風力発電に関する技術打合せ
日 時：平成27年2月2日(月) 15:00～
場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室
参加者：6名

(14) 研究協力会役員会および総会

【議 題】

1. 平成25年度活動・決算報告
2. 平成26年度事業計画(案)、予算案等を協議

【特別講演】

演 題：「『ものづくり』の産学連携について」

北海道経済連合会 前会長 近藤 龍夫

演 題：「エネルギーに関する国内事情と本学の取組み」

もの創造系領域 准教授 朴 峻秀

【情報交換会】

日 時：平成26年7月10日(木) 14:00～18:30
場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)

参加者：39名



(15) 第26回国立大学法人共同研究センター長等会議

日時：平成26年9月25日(木) 14:00～21:00、26日(金) 9:30～17:30(見学会含む)

場所：北見工業大学(北見市)

参加者：200名

2. 外部資金獲得、研究シーズの紹介・活動(5件)

(1) JST A-STEPの申請に対するコーディネート(11回)

(2) JST A-STEP 事業説明会

日時：平成26年7月7日(月) 14:00～

場所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

参加者：12名

(3) JST シーズ説明会(発表会)(3回)

①北海道地域3大学2公設試 大学連携新技術説明会

テーマ：「混合気体から炭酸ガスを高選択的に分離可能な高分子膜」

くらし環境系領域 助教 馬渡 康輝

主催：北海道大学産学連携本部、(独)科学技術振興機構

共催：室蘭工業大学、北見工業大学、(地独)北海道立総合研究機構
(財)函館地域産業振興財団

後援：(独)中小企業基盤整備機構、全国イノベーション推進機関ネットワーク

日時：平成26年9月8日(月) 10:30～16:45、9日(火) 10:30～16:45

場所：JST 東京本部別館ホール

参加者：158名

②A-STEP 発 新技術説明会

テーマ：「有機分子触媒を用いる新規抗インフルエンザ薬合成中間体の効率的な不斉合成法の開発」

くらし環境系領域 教授 中野 博人

日時：平成26年10月28日(火) 9:35～17:00

場所：JST 東京本部別館(東京都市ヶ谷)

参加者：60名

③A-STEP 発 新技術説明会

テーマ：「高圧合成法を利用した熱電変換材料の製造技術」

しくみ情報系領域 教授 関根 ちひろ

日時：平成26年11月27日(木) 9:35～17:20

場所：JST 東京本部別館(東京都市ヶ谷)

参加者：120名

(4) NEDO 説明会

日時：平成27年3月12日(木) 14:00～16:30

場所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

参加者：18名

(5) 企業訪問 (58 回)

3. 人材育成 (4 件)

(1) MOT (技術経営) 実践講座 (4 回)

① 第 1 回 MOT (技術経営) 実践講座

テーマ：「ものづくり現場での生産管理」

(地独) 北海道立総合研究機構

産業技術研究本部ものづくり支援センター

研究主幹 飯田 憲一

日 時：平成26年7月1日(火) 8:45 ~ 10:15

参加者：62 名

② 第 2 回 MOT (技術経営) 実践講座

テーマ：「コンサルタント業の志と技術経営」

HRS (株) 代表取締役社長 鈴木 哲夫

日 時：平成26年7月8日(火) 8:45 ~ 10:15

参加者：61 名

③ 第 3 回 MOT (技術経営) 実践講座

テーマ：「自動車部品におけるものづくりの実践」

アイシン北海道 (株) 代表取締役社長 後藤 正治

日 時：平成26年7月15日(火) 8:45 ~ 10:15

参加者：66 名

④ 第 4 回 MOT (技術経営) 実践講座

テーマ：「ベンチャーの志と技術経営」

(株)FJコンポジット 代表取締役 津島 栄樹

日 時：平成26年7月22日(火) 8:45 ~ 10:15

参加者：68 名

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

場 所：室蘭工業大学 C208 講義室



(2) スーパー連携大学院

① e-learning (MOT 基礎論)

② 地域課題調査 (アンケート)

③ コア運営委員会

④ 社長講和

⑤ スーパー連携大学院室蘭フォーラム

【主催者挨拶】

学長 佐藤 一彦

【講演】

テーマ：スーパー連携大学院と改組後の室蘭工業大学大学院に関する講演

室蘭工業大学 理事(学術担当)・副学長 空閑 良壽

【基調講演】

テーマ：地域産業の活性化と、人材育成について

(株)日本製作所 室蘭研究所長 東 司

【パネルディスカッション】

【情報交換会】

日 時：平成27年3月25日(水) 16:00 ~

場 所：室蘭工業大学 教育研究棟 1 号館 A304

参加者：115 名

(3) 出前講義(3 回)

①テーマ：「建築分野における寒中コンクリート」

くらし環境系領域 教授 濱 幸雄

日 時：平成26年5月27日(火) 16:00 ～ 18:00

場 所：(株)西村組 会議室(湧別町)

参加者：20 名

②テーマ：「金型を通しての熱処理 ～ 基礎と実際 ～」

地域共同研究開発センター センター長 鴨田 秀一

日 時：平成26年6月6日(金) 17:00 ～ 19:30

場 所：(株)札幌研削工業

参加者：15 名

③テーマ：「協調・共同・融和で活力ある地域づくりを」

地域共同研究開発センター 准教授 古屋 温美

日 時：平成26年9月30日(火) 13:00 ～ 17:30

場 所：ウイングベイ小樽(小樽市)

参加者：約 40 名

(4) 胆振次世代革新塾 ～ 問題解決力を養い新たな価値の創出へ!! ～(8 回)(その他 2 回)

①胆振次世代革新塾立ち上げ協議(東京間のネットワーク会議を含む)

日 時：平成 26 年 6 月 5 日(木) 16:00 ～ 18:00

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

参加者：12 名

②テーマ：「問題解決力とイノベーション」

テーマ I：「イノベーションとは何か」(自宅からネットワークによる講義等)

法政大学 教授 岡本 義行

テーマ II：「本講座の全体ガイダンス」

法政大学地域研究センター 客員研究員 中島 ゆき

【情報交換会】

日 時：平成 26 年 8 月 28 日(木) 19:00 ～ 21:00

参加者：28 名

③テーマ：「問題解決力とイノベーション」

テーマ I：「問題解決力と改善」

(株)キュー・エム・アイ 代表取締役 池部 信夫

日 時：平成 26 年 9 月 4 日(木) 19:00 ～ 21:00

参加者：24 名

④テーマ：「問題解決力とイノベーション」

テーマ I：「グループワーク(終身雇用のあり方について)」

法政大学地域研究センター 客員研究員 中島 ゆき

日 時：平成 26 年 9 月 18 日(木) 19:00 ～ 21:00

参加者：24 名

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

⑤テーマ：「問題解決力とイノベーション」



テーマⅠ：「選択を科学する(1)」

崇城大学教授 永松 俊雄

日 時：平成 26 年 10 月 9 日(木) 19:00 ～ 21:00

場 所：テクノアゴラ(室蘭市)

参加者：24 名

⑥テーマ：ロジカルシンキング

テーマⅠ：選択を科学する(1)

崇城大学教授 永松 俊雄

日 時：平成 26 年 10 月 23 日(木) 19:00 ～ 21:00

参加者：24 名

⑦テーマ：組織とマネジメント

テーマⅠ：組織論とリーダーシップ(1)

法政大学 教授/元花王役員 北原 正敏

日 時：平成 26 年 11 月 6 日(木) 19:00 ～ 21:00

参加者：24 名

⑧テーマ：組織とマネジメント

テーマⅠ：組織論とリーダーシップ(2)

法政大学 教授 岡本 義行(自宅よりネットワークによる参加)

法政大学 教授/元花王役員 北原 正敏(法政大学よりネットワークによる参加)

法政大学地域研究センター 客員研究員 中島 ゆき



【情報交換会】

日 時：平成 26 年 11 月 20 日(木) 19:00 ～ 21:00

参加者：24 名

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室



⑨テーマ：製造現場の課題を映像(事例)から紐解き解決する実践セミナー

～希望企業には受講後、現場にて解決アドバイス～

テーマⅠ：5S・ムダ取りの実習

日 時：平成 27 年 2 月 13 日(金) 15:00 ～ 16:30

参加者：24 名

⑩テーマ：製造現場の課題を映像(事例)から紐解き解決する実践セミナー

～希望企業には受講後、現場にて解決アドバイス～

テーマⅠ：工程改善の実習

日 時：平成 27 年 3 月 11 日(水) 15:00 ～ 16:30

参加者：24 名

場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)

主 催：『ものづくり企業活性化チーム 学・官・金 室蘭』 / (一社) 北海道機械工業会
構成 室蘭工業大学 地域共同研究開発センター : 室蘭市 経済部 産業振興課

4. セミナー、研修会、交流会の開催(6件)

(1)CRD セミナー(5回)

①HiNT 連絡会および他機関との連携活動セミナー(第1回 CRD セミナー)

テーマ:「未利用石炭資源の活用 - 石炭地下ガス化技術の未来 -」

環境科学・防災研究センター・しくみ情報系領域 教授 板倉 賢一

主催: HiNT運営協議会

日時: 平成26年4月23日(水) 15:30 ~ 18:00

場所: R&Bパーク札幌大通サテライト(札幌市)

出席: 25名

②第2回 CRD セミナー

テーマ:「阪神・淡路大震災の記憶」

国土交通省 北海道開発局 開発監理部 開発調整課長 谷村 昌史

【情報交換会】

主催: 室蘭工業大学 同窓会水元技術士会

日時: 平成26年7月11日(金) 18:00 ~ 21:15

場所: ホテルポールスター札幌(札幌市)

参加者: 43名

③HiNT 連絡会および他機関との連携活動セミナー(第3回 CRD セミナー)

テーマ:「室蘭工大OASISの環境・エネルギー材料研究」

環境・エネルギーシステム材料研究機構 機構長

室蘭工業大学 特任教授 香山 晃

主催: HiNT運営協議会

日時: 平成26年7月16日(水) 17:00 ~ 18:00

場所: R&Bパーク札幌大通サテライト(札幌市)

出席: 25名

④第4回 CRD セミナー

テーマⅠ:「利雪最前線 2014秋」

室蘭工業大学 大学院工学研究科 機械工学専攻 特任教授 媚山 政良

テーマⅡ:「航空宇宙機システム研究センターの先端研究開発の現況について」

室蘭工業大学 航空宇宙機システム研究センター

センター長 東野 和幸

【情報交換会】

主催: 室蘭工業大学 同窓会小樽支部

日時: 平成26年10月25日(土) 18:00 ~ 21:15

場所: ニュー三幸(小樽市)

参加者: 43名



⑤苫小牧地域産学官金連携セミナー2014「ものづくりに生かす素材と技術」(第5回 CRD セミナー)

テーマⅠ:「焼結によるものづくり」

苫小牧工業高等専門学校 機械工学科 准教授 高澤 幸治

テーマⅡ:「非鉄金属材料の腐食と防食」

室蘭工業大学 もの創造系領域・航空宇宙システム工学ユニット 准教授 境 昌宏

主催: 苫小牧地域ものづくり産業振興のための産学官金連携実行委員会

後援: 苫小牧市、苫小牧市教育委員会、室蘭工業大 学地域共同研究開発センター 研究協力会
苫小牧工業高等専門学校 協力会

日 時：平成 27 年 1 月 23 日(金) 15:00 ～ 17:00
場 所：苫小牧経済センター6F 大ホール(苫小牧市)
参加者：29 名

(2) 室工大&機械工業会コラボによる高度技術研修(2014 ものづくり技術セミナー)

テーマⅠ：燃結による AI 基複合材料および塑性変形利用医療機器

北海道大学 大学院工学研究院 人間機械システムデザイン部門
マイクロエネルギーシステム研究室 教授 佐々木 克彦

テーマⅡ：塑性加工と解析とシミュレーション技術

(株)コベルコ科研 エンジニアリングメカニクス事業部
CAE・実験評価部 解析技術室 中島 伸吾

テーマⅢ：サーボプレスを利用したファインブランクングの事例

北海道立総合研究機構 産業技術研究本部 工業試験場 製品技術部
生産システム・製品技術グループ 研究主任 鶴谷 知洋

テーマⅣ：サーボプレスの高機能化と進化するパルス成形技術

(株)アマダ プレス事業部門 技術部 芳樹 宏志

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

(社)北海道機械工業会(自動車プレス部会、機械製缶部会、札幌支部)

後 援：北海道プレス加工研究会、(公社)精密工学会北海道支部、(社)日本機械学会北海道支部
(公社)日本鋳造工学会北海道支部、(地独)北海道立総合研究機構工業試験場
室蘭工業大学CRDセンター研究協力会、異業種交流プラザ“創造”

日 時：平成 26 年 11 月 18 日(火) 13:00 ～ 17:00

場 所：京王プラザホテル札幌(札幌)

参加者：82 名



(3) 第 26 回フロンティア技術検討会

総合テーマ：「水素エネルギー社会の実現に向けて」

テーマⅠ：「水素社会の実現に向けて ～課題と取り組みの方向性～」

(独)新エネルギー・産業技術総合開発機構 新エネルギー部 主任研究員 吉積 潔

テーマⅡ：「北海道を水素油田に!!再生可能なエネルギーを活用した社会システムの構造改革」

(株)フレイン・エナジー 代表取締役 小池田 章

テーマⅢ：「燃料電池車へのトヨタの取り組み」

トヨタ自動車(株) 流通企画部 北海道・近畿 地域統括部長 萩原 靖仁

テーマⅣ：「炭素ナノ資材を活用した燃料電池用電極触媒の開発と高性能化」

くらし環境系領域 准教授 田邊 博義

【産・学・官交流会】

主 催：室蘭地域産学官連携事業実行委員会

委員会構成

室蘭工業大学 地域共同研究開発センター

室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 研究協力会

(公財)室蘭テクノセンター、産学交流プラザ「創造」

後 援：北海道胆振総合振興局、室蘭市、登別市、伊達市、室蘭商工会議所、登別商工会議所
 伊達商工会議所、室蘭信用金庫、伊達信用金庫、北洋銀行、北海道銀行
 日本政策金融公庫、北海道新聞社 室蘭支社、室蘭民報社
 北海道中小企業家同友会 西胆振支部、北海道 I M連携促進会
 日 時：平成 26 年 10 月 16 日(木) 14:00 ～ 19:15
 場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)
 参加者：94 名



(4) 北のものづくり総合技術交流会(出前講座) (2 回)

①テーマ：「金型を通しての熱処理 ～ 基礎と実際 ～」
 地域共同研究開発センター センター長(特任教授) 鴨田 秀一

日 時：平成26年7月16日(水) 18:00 ～ 21:00
 参加者：28 名

②テーマ：「良く解る鉄鋼の表面硬化技術」
 地域共同研究開発センター センター長(特任教授) 鴨田 秀一

日 時：平成26年8月20日(水) 18:00 ～ 21:00
 参加者：28 名

主 催：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター
 場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

(5) 「室蘭工大 未来をひらく技術と研究」出版記念講演会

テーマ：「温故知新 鋳物の新たな可能性」
 室蘭工業大学 特任教授 桃野 正

日 時：平成26年9月24日(水) 18:30 ～ 20:00
 場 所：北海道新聞社北 1 条館 1 F DO-BOX(札幌市中央区大通西 3 丁目 6)(札幌市)
 参加者：32 名

(6) デジタルエンジニアリング人材育成フォーラム

テーマⅠ：「日本の自動車産業の現状と課題」
 講 師：(株)アドヴィックス 取締役社長 川田 武司

テーマⅡ：「切削加工におけるシミュレーション利用とその課題」
 講 師：もの創造系領域 ロボティクスユニット 教授 寺本 孝司

主 催：(公財)室蘭テクノセンター、(公財)北海道央産業振興財団(苫小牧市)
 共 催：室蘭工業大学・地域共同研究開発センター、北海道 C A E 利用技術研究会
 後 援：北海道、室蘭市、室蘭商工会議所、(社)日本材料学会 北海道支部
 北海道トライボロジー研究会
 日 時：平成26年5月9日(金) 11:40 ～ 20:00
 場 所：室蘭工業大学 S201
 参加者：76 名



(7) 第7回道内電気計装エンジニアリング研修会

【講演】

先端技術紹介(10:30～12:00)

テーマⅠ：「地球の歴史を振り返りエネルギーを考える」

(株)MHPSコントロールシステムズ スペシャルエキスパート(工学博士) 黒石 卓司

先端技術紹介(13:00～14:30)

テーマⅡ：「サプライサイクル事業を支える最新技術の動向」

もの創造系領域 教授 清水 一道

【討議】

日常的な技術紹介と課題討論(14:45～17:15)

テーマⅠ：「制御現場における小型端末活用事例」

ニッテツ北海道制御システム(株) 計算機通信制御部 課長 敦賀 幸一

テーマⅡ：「無線計装の活用事例」

JX日鉱日石エネルギー(株)室蘭製造所 計装電気グループ マネージャー 小永 竜也

日時：平成26年8月21日(木) 10:25～17:30

場所：ニッテツ北海道制御システム(株)(nSC)(室蘭市)

参加者：28名

5. 他機関との連携活動(14件)

(1) HiNT 協議会・連絡会(6回)

①主 催：HiNT運営協議会

日時：平成26年4月23日(水) 15:30～18:00

出席：18名

②主 催：HiNT運営協議会

日時：平成26年5月14日(水) 15:30～18:00

出席：18名

③主 催：HiNT運営協議会

日時：平成26年7月16日(水) 17:00～18:00

出席：18名

④主 催：HiNT運営協議会

日時：平成26年9月10日(水) 16:00～18:30

出席：18名

⑤主 催：HiNT運営協議会

日時：平成26年11月20日(木) 16:00～18:30

出席：22名

⑥主 催：HiNT運営協議会

日時：平成27年3月26日(木) 15:30～18:30

出席：22名

場所：R&Bパーク札幌大通サテライト(札幌市)

(2)産学交流プラザ「創造」(13回)

①例会

日 時：平成26年4月22日(火) 14:00 ～ 20:00
場 所：(株)アール・アンド・イー、登別温泉、かめや
参加者：20名

②役員会

日 時：平成26年5月19日(月) 10:00 ～ 12:00
場 所：(公財)室蘭テクノセンター
参加者：12名

③総会

日 時：平成26年5月27日(火) 17:30 ～ 20:00
場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)
参加者：35名

④例会

日 時：平成26年6月24日(火) 15:30 ～ 20:00
場 所：三和工業(株)、かめや
参加者：23名

⑤他地域企業見学会(函館)

日 時：平成26年8月8日(金) 9:00 ～ 9日(土) 16:00
場 所：新函館北斗駅(新幹線駅)建設現場、函館どつく(株)本社
(株)函館カール・レイモン本社工場
参加者：21名

⑥例会

日 時：平成26年9月29日(月) 17:00 ～ 20:30
場 所：かめや
参加者：25名

⑦例会

日 時：平成26年10月21日(火) 17:00 ～ 20:30
場 所：テクノアゴラ
参加者：20名

⑧例会

日 時：平成26年11月17日(月) 17:00 ～ 20:00
参加者：23名

⑨例会

日 時：平成26年12月16日(火) 17:30 ～ 20:00
参加者：25名
場 所：かめや

⑩小水力発電実験用河川調査

日 時：平成27年2月4日(水) 14:00 ～ 17:00
場 所：阿部産業(株)
参加者：12名(中津川先生 他)

⑪役員会

日 時：平成27年2月12日(木) 13:30 ～ 20:00
場 所：室蘭テクノセンター(室蘭市)
参加者：35名

⑫例会

日 時：平成27年2月24日(火) 17:00 ～ 20:00

参加者：25名

⑬例会

日 時：平成27年3月24日(火) 17:00 ～ 20:00

参加者：25名

場 所：かめや

(3) 蘭参会(名刺交換会)(4回)

①日 時：平成26年5月13日(火) 18:30 ～ 20:30

参加者：120名

②日 時：平成26年8月19日(火) 18:30 ～ 20:30

参加者：110名

③日 時：平成26年11月25日(火) 18:30 ～ 20:30

参加者：115名

④日 時：平成27年2月17日(火) 18:30 ～ 20:30

参加者：115名

場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)

(4) (地独)北海道立総合研究機構との包括連携に関する会議および連携協定調印式(4回)

①会議

日 時：平成26年6月16日(月) 15:30 ～ 17:30

参加者：10名

②会議

日 時：平成26年8月4日(月) 14:30 ～ 17:30

参加者：8名

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室

③会議

日 時：平成26年9月3日(水) 9:30～ 11:30

場 所：(地独)北海道立総合研究機構 工業試験場(札幌市)

参加者：5名

④連携協定調印式

日 時：平成26年11月14日(金) 15:30 ～ 17:30

場 所：室蘭工業大学 事務局 会議室

参加者：22名

(5) 北海道科学技術審議会に関する会議(3回)

①日 時：平成26年5月28日(水) 13:30 ～ 15:30

参加者：15名

②日 時：平成26年10月8日(水) 13:30 ～ 15:30

参加者：15名

③日 時：平成26年12月15日(月) 13:30 ～ 15:30

参加者：15名

場 所：札幌かでの2.7(札幌市)

(6) コラボ産学官(総会、講演会)(2回)

①日 時：平成26年6月12日(木) 14:30 ～ 17:15

参加者：総会49名、講演会87名

②第12回本部理事会

日 時：平成27年3月17日(火)～18日(水)

参加者：鴨田センター長

場 所：コラボ産学官プラザ in TOKYO

(7)産学官連携プラットフォーム in 釧路

日 時：平成26年12月3日(水)～4日(木) 13:30 ～ 15:30

場 所：釧路市アクア・パール

参加者：41名

(8)全道産学官ネットワーク推進協議会

日 時：平成26年12月9日(火) 13:30 ～ 19:00

場 所：札幌ガーデンパレス

参加者：54機関67名

(9)道科技審 室蘭地域懇談会

テーマ：「地域における新事業創出と人材育成」

地域共同研究開発センター 准教授 古屋 温美

日 時：平成26年10月30日(木) 13:00 ～ 17:30

場 所：胆振総合振興局合同庁舎(むろらん広域センタービル)(室蘭市)

参加者：13名

(10)北海道防災・減災リレーシンポジウム

総合テーマ：「冬の防災・危機管理を考える」

テーマⅠ：「冬の津波に備える」

くらし環境系領域 教授 木村 克俊

テーマⅡ：「大規模土砂災害と危機管理」

北海道大学 大学院農学研究院 特任教授 南 哲行

パネルディスカッション

主 催：北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学

共 催：(社)国立大学協会、北海道新聞社

後 援：北海道開発局、北海道運輸局、札幌管区気象台、国土地理院北海道地方測量部
北海道経済産業局、北海道、札幌市、室蘭市、北見市、中標津町
土木研究所寒地土木研究所、北海道立総合研究機構、北海道開発協会
北海道開発技術センター、日本赤十字社北海道支部、北海道トラック協会
北海道医師会、北海道建設業協会、建設コンサルタント協会北海道支部
東日本高速道路(株)北海道支社、北海道電力(株)、北海道ガス(株)

協 力：北海道大学公共政策大学院公共政策学研究センター

室蘭工業大学地域共同研究開発センター

日 時：平成26年10月23日(木) 13:30 ～ 17:00

場 所：中嶋神社 蓬峯殿(室蘭市)

参加者：145名



(11)技術士会(2回)

①第7回北海道地区高専テクノ・イノベーションフォーラム(パネル展示)

「新聞全面広告、センター案内、室蘭観光、室蘭工場夜景」

日 時：平成26年8月21日(木) 9:30 ～ 17:30

場 所：札幌コンベンションセンター(札幌市)

参加者：約 600 名

②講演会

テーマ：「温故知新 鋳物の新たな可能性」

室蘭工業大学 特任教授 桃野 正

日 時：平成 27 年 1 月 16 日(金) 15:00 ～ 17:00

場 所：テクノアゴラ(室蘭市輪西町)

参加者：30 名



(12)客員教授による地域共同研究開発センター活動支援会議(2回)

①日 時：平成26年8月22日(金) 15:30 ～ 17:30

参加者：10 名

②日 時：平成27年3月23日(月) 15:30 ～ 17:30

参加者：11 名

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室



(13)コーディネーター会議(1回/2ヶ月)(6回)および室蘭テクノセンター理事会

①日 時：平成 26 年 5 月 22 日(木) 15:00 ～ 16:00

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

参加者：9 名

②日 時：平成 26 年 7 月 30 日(水) 15:00 ～ 16:00

場 所：(公財)室蘭テクノセンター

参加者：9 名

③日 時：平成 26 年 10 月 2 日(木) 15:00 ～ 16:00

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

参加者：12 名

④日 時：平成 26 年 11 月 26 日(水) 15:00 ～ 16:00

場 所：(公財)室蘭テクノセンター

参加者：9 名

⑤日 時：平成 27 年 1 月 29 日(木) 15:00 ～ 16:00

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 産学交流室

参加者：9 名

⑥日 時：平成 27 年 3 月 24 日(火) 15:00 ～ 16:00

場 所：(公財)室蘭テクノセンター

参加者：9 名

⑦室蘭テクノセンター理事会

日 時：平成27年3月24日(火) 11:00 ～

場 所：(公財)室蘭テクノセンター

参加者：15 名

(14)客員教授(知的財産関係)との会議(9回)

①日 時：平成 26 年 4 月 4 日(金) 15:30 ～ 17:30

②日 時：平成 26 年 5 月 23 日(金) 15:30 ～ 17:30

③日 時：平成 26 年 6 月 24 日(火) 10:00 ～ 13:00

- ④日 時：平成 26 年 7 月 7 日(月) 13:00 ～ 16:00
 ⑤日 時：平成 26 年 8 月 26 日(火) 13:00 ～ 15:00
 ⑥日 時：平成 26 年 10 月 8 日(水) 10:30 ～ 16:30
 ⑦日 時：平成 26 年 11 月 27 日(木) 10:30 ～ 15:30
 ⑧日 時：平成 26 年 12 月 16 日(火) 13:00 ～ 15:00
 ⑨日 時：平成 27 年 2 月 3 日(火) 15:30 ～ 17:30

場 所：室蘭工業大学 地域共同研究開発センター 会議室
 参加者：3 名(三井氏)

6. 各種展示会への出展(7 件)

(1) 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2014【パネル展示】

「粉砕による機能性微粒子の創出と機能発現」

くらし環境系領域 准教授 山中 真也
 理事・副学長 空閑 良壽

「環境調査用自律走行車両」

もの創造系領域 ロボティクスユニット システム制御工学研究室 准教授 花島 直彦

「加圧水型 DCHE 方式地熱発電用の耐環境・長寿命セラミックス複合材料 2 重鋼管の開発」

環境・エネルギーシステム材料研究機構(OASIS)

「混合気体から炭酸ガスを高選択的に分離可能な高分子膜」

客員教授 田畑 昌祥
 くらし環境系領域 助教 馬渡 康輝
 博士研究員 吉田 嘉晃

「羊毛廃棄物から作製するエンジニアリングプラスチック」

もの創造系領域 教授 平井 伸治
 大学院生 田川 純一

「センターシーズ集に関する広報」

主 催：北洋銀行

後 援：経済産業省北海道経済産業局、北海道、札幌市、(社)北海道機械工業会
 北海道経済連合会、(社)北海道商工会議所連合会、(社)北海道中小企業家同友会
 札幌商工会議所、(独)中小企業基盤整備機構北海道支部
 (独)産業技術総合研究所北海道センター、北海道立総合研究機構
 (社)北海道発明協会、(公財)北海道中小企業総合支援センター
 (公財)北海道科学技術総合振興センター、北海道自動車産業集積促進協議会
 札幌証券取引所、(財)省エネルギーセンター北海道支部、(公財)北海道環境財団
 (財)さっぽろ産業振興財団、EMS-J P 北海道、(株)北海道二十一世紀総合研究所
 (独)土木研究所寒地土木研究所、旭川商工会議所

協 力：北海道大学、室蘭工業大学、小樽商科大学、帯広畜産大学、北見工業大学
 札幌医科大学、札幌市立大学、函館工業高等専門学校、苫小牧工業高等専門学校
 釧路工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校

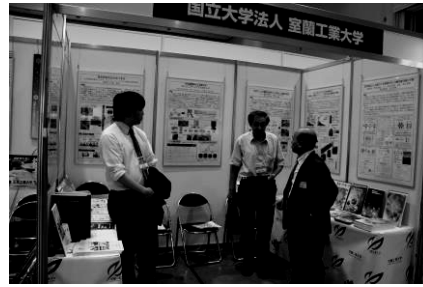
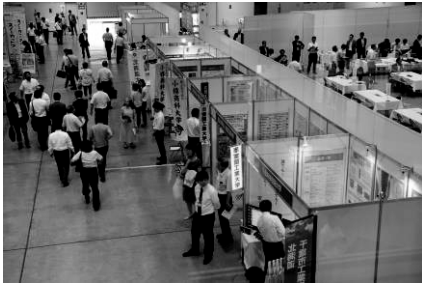
特別協力：帯広信用金庫、旭川信用金庫

協 賛：札幌コンベンションセンター

日 時：平成26年7月24日(木) 10:00 ～ 17:00

場 所：札幌コンベンションセンター(札幌市)

参加者：約 4,300 名 参加企業：196 社・団体



(2) ビジネス EXPO「第 28 回北海道 技術・ビジネス交流会」【パネル展示】

同時開催 シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関

①パネル展示等（本学関係分）

「全量副産物ゼロセメント固化体製品の実用化技術」

くらし環境系領域 教授 濱 幸雄

「高い水素化活性化能を有する貴金属リン化合物系脱硫触媒の開発」

くらし環境系領域 助教 神田 康晴

「混合気体中の CO₂ を選択的に分離できる高分子膜」

くらし環境系領域 助教 馬渡 康輝

「動物性タンパク質を用いた高機能性樹脂」

もの創造系領域 教授 平井 伸治

「ホタテ貝殻粉末を用いた紫外線遮蔽剤の開発」

くらし環境系領域 准教授 山中真也

「SiC/SiC複合材料の開発」

環境・エネルギーシステム材料研究機構 機構長
室蘭工業大学 特任教授 香山 晃

②シーズ・ニーズマッチングフェア with 金融機関

「全量副産物ゼロセメント固化体製品の実用化技術」

室蘭工業大学 くらし環境系領域 教授 濱 幸雄

「連続繊維(FRP)板の接着による水中・海中コンクリート構造物の補修補強工法の開発」

室蘭工業大学 くらし環境系領域 講師 栗橋 祐介

「SiC/SiC複合材料による耐環境構造材料の開発」

室蘭工業大学 環境・エネルギーシステム材料研究機構 研究員 早坂 大輔

「ホタテ貝殻微粉末を用いた紫外線遮蔽剤の開発」

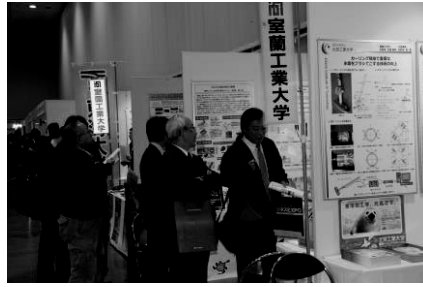
室蘭工業大学 くらし環境系領域 准教授 山中 真也

主催：北海道 技術・ビジネス交流会 実行委員会

日時：平成 26 年 11 月 6 日(木) 10:00 ～ 17:30、7 日(金) 9:30 ～ 17:00

場所：アクセスサッポロ(札幌市)

参加者：20,028 名 ((木)10,165 名、(金)9,863 名)



(3) イノベーション・ジャパン 2014 (～大学見本市&ビジネスマッチング～) 【パネル展示等】

「繊維廃棄物は宝の山 ～動物繊維廃棄物から生まれた新しい樹脂～」

もの創造系領域 教授 平井 伸治

日 時：平成26年9月11日(木) 9:30～17:30、12日(金) 10:00～17:00

場 所：東京ビックサイト 東京国際展示場(東京都)

参加者：11,976名、 11,988名 合計 23,964名

(4) 第4回エコ・リサイクル型ものづくりシンポジウム 【パネル展示等】

日 程：平成27年2月14日(土) 13:00～17:00

場 所：蓬峯殿(室蘭市宮の森町1-1)

内 容：基調講演、事例紹介(3名)、ブースによる紹介

参加者：116名

(5) 第6回北海道地区高専テクノ・イノベーションフォーラム 【パネル展示等】

「粉碎による機能性微粒子の創出と機能発現」

くらし環境系領域 准教授 山中 真也

理事・副学長 空閑 良壽

「環境調査用自律走行車両」

もの創造系領域 ロボティクスユニット システム制御工学研究室 准教授 花島 直彦

「加圧水型DCHE方式地熱発電用の耐環境・長寿命セラミックス複合材料2重鋼管の開発」

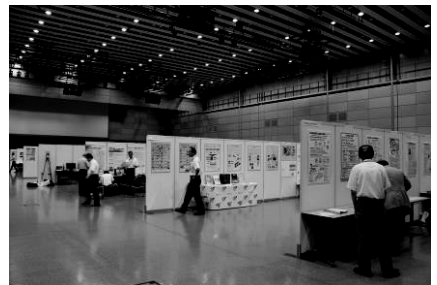
環境・エネルギーシステム材料研究機構(OASIS)

「センターシーズ集に関する広報」

日 時：平成26年8月21日(木) 9:30～17:30

場 所：札幌コンベンションセンター(札幌市)

参加者：約600名



(6) メッセナゴヤ 2014 【4件パネル展示】

日 時：平成26年11月5日(水) 9:30～17:30

場 所：ポートメッセなごや(名古屋港金城ふ頭)

参加者：65,975名

(7) 展示会出展助成事業

①出展研究シーズ名：超音波アクチュエーションと非接触

展示会名：TECNO-FRONTIER 2014 第23回モーションエンジニアリング展

申請教員：しくみ情報系領域 教授 青柳 学

日 時：平成 26 年 7 月 23 日(水)～25 日(金)
場 所：東京ビッグサイト(有明・東京国際展示場)東 1～3 ホール(東京都江東区)
参加者：11,633 名

7. 他機関主催事業への参加(ニーズ・情報の収集活動)(3 件)

(1) 中小企業家同友会(3 回)

- ①北海道中小企業家同友会苫小牧支部総会
日 時：平成26年4月23日(水) 17:00 ～ 21:00
場 所：グランドホテルニュー王子
参加者：124 名
- ②苫小牧地域産学官連携実行委員会
日 時：平成26年6月20日(金) 14:30 ～ 16:30
参加者：10 名
- ③苫小牧地域産学官連携実行委員会定期総会及び懇親会
日 時：平成26年7月4日(金) 16:30 ～ 18:30
参加者：20 名
場 所：苫小牧経済センター6F 大ホール

(2) 中小規模材料加工実践技術経営研究会(JZK)(3 回)

- ①第 25 回中小規模材料加工実践技術経営研究会(JZK-25)「同志 7 年目の未来展望」
日 時：平成26年5月16日(金) 13:00 ～ 20:00
場 所：NASIC-セミナーホール(青山オーバルビル 15F)(東京都)
参加者：38 名
- ②第 26 回中小規模材料加工実践技術経営研究会「明日を拓く現場ものづくり技術-6」 in 北見
日 時：平成26年7月31(木) 14:30 ～ 21:00、8月1日(金) 8:00 ～ 18:40(見学会)
場 所：ホーツク木のプラザ(北見市)
参加者：36 名

③Colloquium 2015「技術科学と生産技術の交流-7」(併催)7周年記念 第28回 JZK

【趣 旨】

わが国ものづくり技術の明日の展開のために、技術科学の第一線研究者(大学)と生産技術の前線技術経営者(企業等)が一堂に会し、技術研究と技術者教育のより高いパフォーマンスを目指して語り合い、それぞれの歩むべき道を確認、また工学と工業の不即不離の絆でシナジー効果を期待する。特別講演、技術研究成果発表、交流会など盛りだくさん。お誘い合せて、充実の時間を共にしましょう。

【プログラム内容】(本学関係分)

第1部 技術科学の成果

「抗アルツハイマー病剤探索のための新規スクリーニングシステムの開発」

室蘭工業大学 化学生物工学 准教授 徳楽 清孝

主 催：室蘭工業大学、信州大学、JZK中小規模材料加工実践技術経営研究会

後 援：(株)NASIC 学生情報センター

日 時：平成 27 年 2 月 5 日(木) 13:00 ～ 20:00

場 所：NASIC セミナーホール(渋谷区神宮前 5-52-2 青山オーバルビル 15F)

参加者：36 名

(3) 技術移転フォーラム 2014「工業試験場成果発表会」

(地独)北海道立総合研究機構 工業試験場 成果発表会

日 時：平成 26 年 5 月 20 日(火) 15:30 ～ 17:30

場 所：ホテル札幌ガーデンパレス

参加者：510 名

(4) 北海道医療福祉産業研究会(青柳先生サンプル展示)

『北海道ヘルスケア産業マッチングセミナー』(ブース展示)

日 時 : 平成 27 年 3 月 20 日 (金) 13:00 ~ 17:30

場 所 : 札幌コンベンションセンター 中ホール (札幌市)

主 催 : (株)北海道二十一世紀総合研究所 北海道ヘルスケアサービス創造研究会

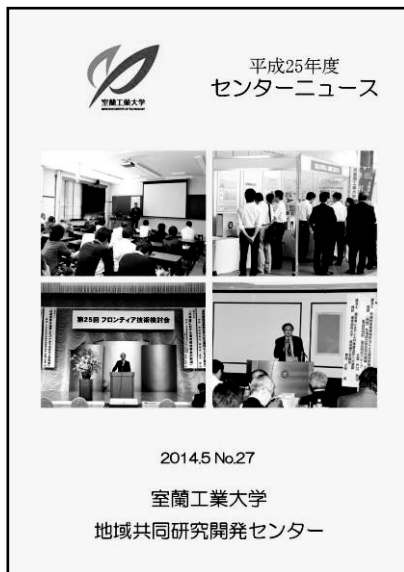
協 力 : 経済産業省北海道経済産業局、札幌商工会議所、北洋銀行、北海道銀行
一般社団法人北海道信用金庫協会

6. 広報(2件)

(1) 定期刊行物(平成 27 年 3 月)(2件)

①センターニュース No.27

②研究報告 No.26



(2) 学内講義棟での展示(1件)

①教員の研究シーズパネル展示(16テーマ/2ヶ月)(6回)

4. 地域共同研究開発センター 研究協力会

役員名簿

役員名	会社名	役職	氏名
会長	新日鐵住金(株) 棒線事業部 室蘭製鐵所	生産技術部長	吉村 康嗣
副会長	王子製紙(株) 苫小牧工場	工場長代理	木戸 信幸
副会長	(株)日本製鋼所 室蘭製作所	副所長	中村 毅
副会長	(株)光合金製作所	代表取締役会長	井上 一郎
理事	日鋼検査サービス(株)	代表取締役社長	小澤 幸男
理事	函館どつく(株) 室蘭製作所	取締役所長	武田 勇一
理事	(株)永澤機械	代表取締役	永澤 勝博
監事	(株)栗林商会	部長	野村 耕二
監事	日鉄住金セメント(株)	製品開発部長	若杉 伸一

任期：平成25年4月1日～平成27年3月31日

研究協力会加入企業

(平成 27 年 4 月 15 日現在)

	企 業 名	住 所	代 表 者 名	電 話 番 号
		業 務 内 容		
1	(株)阿部産業	〒059-0273 伊達市南稀府町 366	代表取締役 阿 部 万 千 雄	0142-24-1612
2	(株)アール アンドイー	〒059-0462 登別市富浦町 223 番地 1	代表取締役 北 山 茂 一	0143-80-2233
		産業廃棄物処理業(収運・中間・最終)及び再生材等の販売 http://www.rande.co.jp/		
3	伊藤組土建(株)	〒060-8554 札幌市中央区北 4 条西 4 丁目 1	代表取締役社長 玉 木 勝 美	011-261-6111
		1) 建設業、2) 宅地建物取引業、3) 建築の設計および工事監理 当社は明治 26 年創業以来、北海道を拠点として営業してきました。当社の理念の「誠心誠意」を忘れず、土木建築の建設工事を通じて北海道の発展に貢献していきたいと考えています。 http://www.itogumi.co.jp/		
4	岩田地崎建設(株)	〒060-8630 札幌市中央区北 2 条東 17 丁目 2 番地	代表取締役社長 岩 田 圭 剛	011-221-2221
		1) 建築工事、2) 土木工事、3) その他 建設工事全般に関する企画、測量、設計、監理、施工、エンジニアリング及びコンサルティング。 http://www.iwata-gr.co.jp/		
5	HRS(株)	〒047-0005 小樽市勝納町 8 番 39 号	代表取締役社長 鈴 木 哲 夫	0134-22-7710
		・調査(地質、土質、水質、環境、交通、雪、他) ・設計(道路、構造物、地すべり、農業土木、他) ・管理(計測、GIS、情報処理、その他) ・測量(一般、用地、他) ・補償調査		
6	(株)エーティック	〒063-0801 札幌市西区二十四軒 1 条 5 丁目 6-1	代表取締役 舟 田 幸 太 郎	011-644-2845
		1) 環境調査、2) 地質調査、3) 各種計画・設計、4) 防災対策、5) 計測・解析、6) 施工・維持管理など、プランニングからフィールドワークまで一貫したコンサルティングを提供する総合建設コンサルタントです。 http://www.a-tic.co.jp		
7	(株)エスイーシー	〒040-8632 函館市末広町 22 番 1 号	代表取締役社長 永 井 英 夫	0138-22-7188
		1) 情報通信系ソフト・ファーム・ハードウェア設計開発、2) 各種アウトソーシングサービス、3) システムインテグレーション、インターネットプロバイダ http://www.hotweb.or.jp/sec/		
8	王子製紙(株) 苫小牧工場	〒053-8711 苫小牧市王子町 2 丁目 1-1	執行役員工場長 進 藤 富 三 雄	0144-32-0111
		紙・パルプ製造業 http://www.ojipaper.co.jp/		
9	極東高分子(株)	〒047-0261 小樽市銭函 2 丁目 56 番 1 号	代表取締役社長 近 藤 晴 之	0134-62-2111
		包装資材(ポリエチレン製品、ラミネート製品、成型容器段ボール製品)の製造、販売。 http://www.kyokutou.co.jp/		

10	栗林機工(株)	〒050-0082 室蘭市寿町3丁目4-2	代表取締役社長 栗林和徳	0143-44-6001
		1. 設計業務(機械・プラント配管等の計画設計)、2. 各種機械・プラントの据付及びメンテナンス、工事管理(マネジメント)、配管工事(下水、上水、油圧、石油・化学プラント一式)、3. 土木、建築工事(一級建築士事務所)一式、4. 大型油圧クレーン賃貸業(550t、450t その他各種保有)、5. 技術士事務所(機械・総合技術監理)、6. 安全コンサルタント事務所(機械・建築)、7. 陸上・海上輸送営業業務 得意分野：1) 大型機械据付計画及び現地工事、2) 石油・化学プラントの動機械、静機械メンテナンス(全国展開の実績)、3) 港湾荷役機械・天井クレーンの据付・点検・補修業務、4) 油圧機器、配管の設計及び施工 http://www.kikounet.co.jp/		
11	(株)栗林商会	〒051-0023 室蘭市入江町1-19	取締役社長 栗林和徳	0143-24-7011
		http://www.kurinet.co.jp/		
12	(株)コーノ	〒041-0824 函館市西桔梗町213番地の82	代表取締役 阿部俊夫	0138-49-1071
		「熱と水をキーワードに北海道、東北で新産業を創造する」を経営理念とし、熱と水に係わる省エネ機器を開発・製造・販売しています。 平成21年度、熱源内蔵型FF式真空暖房機「HPH」を自社開発し発売。 平成21年度「北海道新技術・新製品開発賞」受賞。 http://www.kohno.info/		
13	こぶし建設(株)	〒060-0908 札幌市東区北8条東1丁目1-35	代表取締役社長 澤口良二	011-711-1156
		http://www.kensonet.co.jp/kobushi/		
14	(株)札幌研削工業	〒063-0834 札幌市西区発寒14条11丁目1番41	代表取締役 嶋村健二	011-663-7288
		昭和50年に創立後、いち早く導入した数値制御装置を使い、精密機械部品の加工および3DCADによる各種の設計・製図により信頼度の高い製品の納入を心掛けています。		
15	三晃化学(株)	〒060-0051 札幌市中央区南1条東5丁目1番地17	代表取締役社長 渡邊民嗣	011-221-5221
		農業資材・産業資材の製造・卸売。 http://www.sankoul.com		
16	産業振興(株) 室蘭事業所	〒050-0087 室蘭市仲町12	執行役員所長 山本弘明	0143-44-5334
		http://www.sangyoshinko.co.jp/		
17	(株)CSソリューション	〒060-0042 札幌市中央区大通5丁目11番地 大五ビル2F	代表取締役 澁谷良治	011-232-1222
		1) ソフトウェア開発、2) 画像・動画処理ソフトウェア開発 http://www.cs-sol.co.jp/		
18	清水鋼鐵(株) 苫小牧製鋼所	〒059-1372 苫小牧市字勇払145-13	代表取締役社長 苫小牧製鋼所長 清水孝	0144-56-1111
		直流電気炉により道内発生の鉄スクラップを主原料に溶解し鋼塊・鉄筋丸棒を製造・販売しております。道内におけるリサイクル産業を振興し循環型社会の形成に寄与しております。 http://www.shimizusteel.co.jp/		

19	(株)白石ゴム製作所	〒003-0834 札幌市白石区北郷4条4丁目20-17	代表取締役 千葉武雄	011-872-3771
		<p>当社は、北海道中小企業家同友会、産学官連携研究会 HoPE の会員でありブリヂストン工業品を退社後、1977年設立の工業用ゴム製品 製造・加工・工事を主とした企業です。特にコンベヤベルトメンテナンスに於いては365日24時間のサービス体制は札幌市の施設などでの実績は豊富です。また、自社製品として水田農薬散布機「ラジボー」や玄関階段のすべり防止「着氷防止エアーマット」等も行政の補助制度を活用させて戴き製品化となっております。</p> <p style="text-align: right;">http://www.rubber.co.jp/</p>		
20	新日鐵住金(株) 棒線事業部 室蘭製鐵所	〒050-8550 室蘭市仲町12番地	執行役員・ 室蘭製鐵所長 安藤豊	0143-47-2111
		<p>創業は1909年(明治42年)、北海道唯一の高炉を持つ製鐵所として発足し、夕張の石炭と噴火湾の砂鉄を原料として鉄づくりが始まった。現在でも道内唯一の銑鋼一貫製鐵所として、主に自動車のエンジンや駆動系、足まわり部品等に使用される高品質な特殊鋼棒鋼線材を製造している。2012年10月、新日本製鐵(株)と住友金属工業(株)の合併により現社名に変更。</p> <p>プラスチックリサイクル事業や副産物のスラグを活用し海岸の藻場を再生する「海の森づくり」等、地球環境改善の取り組みも行なっている。</p> <p style="text-align: right;">http://www.nssmc.com</p>		
21	(株)水工リサーチ	〒062-0933 札幌市豊平区平岸3条3丁目2番7	代表取締役 坂口正美	011-812-7724
		<p style="text-align: right;">http://www.suiko-r.co.jp/</p>		
22	(株)スガテック 室蘭支店	〒050-0087 室蘭市仲町12	執行役員支店長 東野郁夫	0143-44-2223
		<p>製鐵・化学・電力並びに環境分野を中心とした各種機械プラント設備の設計・製作・建設及びメンテナンス。</p> <p style="text-align: right;">http://www.sugatec.co.jp/</p>		
23	千住金属工業(株)	〒120-8555 東京都足立区千住橋戸町23	取締役社長 鈴木良一	03-3888-5151
		<p>はんだ各種・はんだ付装置・オイルレス軸受等の開発・製造・販売を行ない、高いシェアを持っています。</p> <p>環境対応鉛フリーはんだの世界一のメーカーで、特に世界トップシェアのはんだボールにおいて最小30μmのはんだボールを作る技術を開発し、次世代実装技術の開発に貢献できるように努力をしています。</p> <p style="text-align: right;">http://www.senju-m.co.jp/</p>		
24	(株)田中組	〒060-0006 札幌市中央区北6条西17丁目17-5	取締役社長 阿部芳昭	011-611-3331
		<p>1) 土木建築工事業、2) 宅地建物取引業、3) 測量業、4) 土木建築設計及び監理、5) 土木建築用資材・機械器具の販売及び斡旋、6) 前各号に附帯関連する一切の事業</p> <p style="text-align: right;">http://www.tanakagumi.co.jp/</p>		
25	(株)電制	〒067-0051 江別市工業町8番地の13	代表取締役 田上寛	011-380-2101
		<ul style="list-style-type: none"> ・各種電力監視制御システムの開発・設計・製造 ・ダム管理システムや各種通信システム等の開発・設計・製造 ・福祉機器や各種センサーの開発等 <p style="text-align: right;">http://www.dencom.co.jp/</p>		
26	(株)ドーコン	〒004-8585 札幌市厚別区厚別中央1条5丁目4-1	代表取締役社長 平野道夫	011-801-1510
		<p style="text-align: right;">http://www.docon.jp/</p>		

27	(株) 土木技術 コンサルタント	〒080-0011 帯広市西1条南27丁目1	代表取締役 谷口直弘	0155-25-9129
		1)一般土木に関する設計(道路・橋梁・河川)、2)測量調査、地質・土質調査、3)レクリエーション施設設計、4)都市環境設計、5)土木施工計画、管理及び積算、6)維持・補修の点検調査、設計、7)その他技術資料作成及び上記に付帯関連する業務		
28	(株) 永澤機械	〒050-0083 室蘭市東町3丁目1番5号	代表取締役 永澤勝博	0143-44-2888
		当社は、精密切削加工を中心に素材の熱処理から機械加工、仕上げ組み立てまでの一貫製造を行い、各種産業機械部品等を製作させて頂いています。		
29	(株) 檜崎製作所	〒050-8570 室蘭市崎守町385番地	代表取締役社長 鈴木博	0143-59-3611
		弊社は、水処理等環境製品、船舶上架設、鉄管・ゲート、鉄鋼製品及び橋梁のメーカーとして、北海道を中心に全国的に事業を展開しています。最近の環境部門においては、酪農パーラー排水処理設備「パラクリン」、誘導加熱融雪ヒーター「ゆうゆうヒーター」、河川・湖沼・ダム・閉鎖性海域等の水質を改善する高濃度酸素溶解装置「アクオン」など商品化する等、環境にフォーカスしながら進化を遂げています。		
30	(株) 西野製作所	〒050-0075 室蘭市中島本町1丁目11番16号	代表取締役 西野義人	0143-44-5945
		弊社は一般産業機械部品の製作及び修理を主業務として創業いたしました。現在では、溶射加工、硬質クロムメッキ、特殊溶接等の各種表面処理なども取り入れ、機械部品の寸法復元、耐久性性能復帰など高付加価値、多品種少量生産に一貫して対応できる体制を確立し、短納期、低価格を実現いたします。		
31	(株) 西村組	〒099-6404 紋別郡湧別町栄町133-1	代表取締役 西村幸浩	01586-5-2111
32	日鋼検査サービス(株)	〒051-8506 室蘭市茶津町4番地1	代表取締役社長 小澤幸男	0143-22-8386
		弊社は、(株)日本製鋼所で製作された大型溶接構造物、鋳鍛鋼品の試験・検査で長年培われた技術を用いて、プラントの総合保全に貢献致します。(各種非破壊検査、熱交換器伝熱管検査、タンク底板連続肉厚検査、各種材料試験、破損原因調査、余寿命診断、鉄鋼分析、環境分析)。		
33	日鋼MEC(株)	〒051-8506 室蘭市茶津町2番地1	代表取締役社長 栗原行	0143-22-0292
		機械設計のエンジニアリング会社であり、日本製鋼所の設計部門を担当し、更に室蘭地域技術開発支援事業等にも積極的に参加しています。3次元CADによる設計・モデリング、CAMによるNCデータ作成、CAEによる解析業務、更には非接触式3次元測定器による製品測定結果からの図面化業務にも新規に取り組んでいます。		
34	日鉄住金セメント(株)	〒050-8510 室蘭市仲町64	代表取締役社長 中山秀明	0143-44-1693
		地球環境に優しい高炉セメントを始め各種セメントの他、特殊製品としてセメント系地盤固化材、地盤注入材、コンクリート補修材等の製造・販売を通じて社会に貢献しています。		

35	日鉄住金 テクノロジー(株) 室蘭事業所	〒050-0087 室蘭市仲町12	執行役員 室蘭事業所長 樽井敏三	0143-47-2925
		鉄で培った豊かな技術とノウハウで、地球環境保全が注目される時代に相応しい技術を提供致します。主な業務分野は、1)成分分析、2)材料試験、3)環境アセスメント、4)省エネルギー診断で、お客様のニーズに迅速にお応えいたします。 http://www.nsst.nssmc.com		
36	日鉄住金 テックスエンジ(株) 室蘭支店	〒050-0082 室蘭市寿町3丁目1番3号	執行役員支店長 三浦直人	0143-44-1020
		http://www.tex.nssmc.com/		
37	(株)日本製鋼所 室蘭製作所	〒051-8505 室蘭市茶津町4	執行役員 室蘭製作所長 柴田尚	0143-22-0143
		日本製鋼所は、その名の示すとおり「鋼づくり」が原点です。室蘭製鐵所は当社の発祥の地として明治40年(1907年)に創業を始めました。創業以来、長年にわたり培われた高度な技術を基礎に匠の技が創り出す優れた鋼は14,000トン鍛錬プレスに代表される世界最大級の各種生産設備により高品質の大型鋳鍛鋼品、鋼板、鋼管、圧力容器などの製品群となり、世界のエネルギー産業を支えています。また最近では再生可能エネルギーである風力発電事業にも取り組んでいます。 http://www.jsw.co.jp/		
38	日本通運(株) 室蘭支店	〒051-0001 室蘭市御崎町1丁目36番地2	支店長 原田雅彦	0143-22-1151
		http://www.nittsu.co.jp/		
39	函館どつく(株) 室蘭製作所	〒051-0036 室蘭市祝津町1丁目128番地	取締役常務執行役員 取締役所長 武田勇一	0143-27-1251
		船舶製造業、金属製品製造業 http://www.hakodate-dock.co.jp/		
40	(有)馬場機械製作所	〒050-0074 室蘭市中島町4丁目17番9号	代表取締役 馬場義則	0143-45-4535
		弊社は主に切削加工を中心に検査用試験片、治具、試作品製作、など略図、仕様書を似て部品、製品を提供しています。		
41	(株)光合金製作所	〒047-8686 小樽市港町6番1号	代表取締役会長 井上一郎	0134-32-1119
		弊社は昭和二十二年の創業以来、寒冷地の快適な水環境の創造を企業理念に掲げ、寒冷地における不凍栓と関連機器の開発、製造、販売に取り組んでおります。 http://www.hikarigokin.co.jp/		
42	(株)不動テトラ 北海道支店	〒060-0001 札幌市中央区北1条西7丁目 3番地(北一条大和田ビル)	支店長 進藤信博	011-233-1640
		http://www.fudotetra.co.jp/		
43	(株)北央技研	〒050-0063 室蘭市港北町1丁目3番15号	代表取締役 吉田隆	0143-58-1122
		各種金属材料の非破壊検査 http://www.hokuogiken.co.jp/		
44	北海道三祐(株)	〒002-0856 札幌市北区屯田6条8丁目9番12号	代表取締役社長 笹浪圭吾	011-773-5121
		1)一般土木事業、2)斜面崩壊防止事業、3)斜面緑化事業、4)パイプライン更正事業 自然環境の保全・創出並びに生活環境の整備事業に徹し“土と水と緑の調和を築く”をモットーに社会に貢献しております。 http://www.dosanyu.co.jp/		

45	北興工業(株)	〒051-0023 室蘭市入江町1-63	代表取締役社長 萩 幸	0143-23-0321
		弊社は昭和19年設立以来、海洋土木を中心に道路及び河川工事等の一般土木工事部門と快適な街づくりを目指す建築工事部門を有し、確かな技術と豊かな経験、創造力、更には品質と環境における国際規格の取得で、皆様のご信頼に応え、地域社会へ貢献する企業として邁進しています。 http://www.hokkoh-kogyo.co.jp/		
46	みぞぐち事業(株)	〒041-0824 函館市西桔梗町589番地44	代表取締役 溝口 裕 康	0138-48-0810
		コンクリート構造物の診断・補修専門集団です。 http://www.mizoguchi-jigyuu.com		
47	(株)村瀬鉄工所 札幌工場	〒007-0885 札幌市東区北丘珠5条4丁目4-55	取締役工場長 秋 場 勝 行	011-791-1187
		明治40年創業で、現在はダクタイル異形管の専業メーカーとして口径75~800mmの耐震用を含む国内規格品全管種、ISO規格及び規格外特殊異形管を、本社函館工場、札幌工場で製造。		
48	室蘭ガス(株)	〒050-0081 室蘭市日の出町2丁目44番1号	取締役社長 小 林 敏 彦	0143-44-3156
		当社は環境優位性の高い天然ガス・LPガス販売の他に、ガス機器全般や快適な空間造りの為のガスを使った冷房・暖房などの設計、販売、修理を通して環境に優しく安心・安全で豊かな暮らしのお手伝いをさせていただきます。 http://www.murogas.co.jp/		
49	(医法)五紀会 室蘭太平洋病院	〒050-0054 室蘭市白鳥台5丁目19番2号	理事長 伊 藤 真 義	0143-59-2211
		http://taiheiyo.jp/		
50	(公財) 室蘭テクノセンター	〒050-0083 室蘭市東町4丁目28番1号	理事長 栗 林 和 徳	0143-45-1188
		室蘭地域の中小企業振興の中核的支援機関として、室蘭工業大学との連携を図り、ものづくり創出支援をはじめとする各種制度を活用した企業の技術力向上、新製品・新技術の開発、市場開拓などの支援事業を行っています。 http://www.murotech.or.jp/		
51	(株)メイセイ・ エンジニアリング	〒050-0074 室蘭市中島町3丁目11番2号	代表取締役社長 西 潟 勝	0143-43-8113
		1)橋梁の設計(予備・詳細・補修)、2)道路の設計(概略・予備・詳細)、3)港湾・漁港・海岸構造物の設計、4)一般構造物の設計(函渠・擁壁・法面工・雪崩予防施設・基礎工・その他道路付帯施設)、5)河川、水路等の構造物設計(排水・樋門等)、6)測量(基準点・水準・路線・用地等)、7)地質調査、8)環境調査、9)施工管理 http://www.mec-eng.co.jp/		
52	大和工業(株)	〒050-0085 室蘭市輪西町1丁目4番8号	代表取締役社長 黒 龍 雅 英	0143-44-2664
		弊社は昭和25年の創立以来、耐火物施工、鋼構造物施工等の業務を受注してまいりましたが、これと同時に大型窯炉設備の建設にも参加し、国内製鐵所の高炉、コークス炉等の建設に携わって参りました。今後も技術向上を進め客先のご要望にお応えする所存です。 http://www.f-yamato.co.jp/		

(54社中52社掲載)

地場の技術力 見識を深める

産学交流プラザ「創造」



温泉排熱を利用した歩道融雪システムについて
見識を深める創造メンバー＝登別市登別温泉町

西胆振の企業、室工大で構成する産学交流プラザ「創造」(会長・北山茂二・アール・アンド・イー社長)の2014年度(平成26年度)初の現地見学会が22日行われた。アール・アンド・イーが登別市登別温泉町の歩道に施工した、透水性のある舗装材「ドライウェイ」と温泉排熱を組み合わせて歩道の雪を溶かすシステムについて、参加者は見識を深めた。(粟島晁浩)

ドライウェイは透水性と強度を両立した舗装材。融雪システムは、この舗装の下に穴を開けた配管をめぐらせ、排熱を送風機で送り込んで熱気を路面まで通気させて雪を溶かす仕組み。溶けた雪は舗装が吸い取り、凍

結しない利点もある。温泉街では10年度、道の一村一炭素おとし事業の一環で幅3m、全長20mの歩道に整備。熱

源は、30度程度の温泉排湯が流れるマンホールにこもる熱で、1時間当たり3kgの降雪でも機能する。未利用の熱を活用する。未利用の熱を活用する。未利用の熱を活用する。

北山社長は「高気密、高断熱の住宅も換気によって熱を捨てている。これで玄関先や駐車場の融雪ができないか、を道立総合研究機構と開発に取り組んでいる」と今後の展望を語った。

温泉排熱で 歩道を融雪 登別で見学会

るため送風機の電力のみ必要という。この日は創造のメンバーら25人が参加。敷設した歩道で同社建材事業部の藤江仁志さんは「管に湯を通す方式は目詰まり

と比べ維持費は8分の1から10分の1で済むという。参加者はシステムの構造や敷設に規制があるかについて質問するなど、地場技術に触れていた。

産学交流プラザ「創造」は企業36社と室工大でつくり、情報交換や企業見学会などを通して連携を深め、研究開発などに一致協力して取り組む。事務局は室蘭テクノセンタ

異業種交流 広がる輪

西胆振の幅広い業種の企業人や室工大、行政の担当者らが参加する異業種交流会・蘭参会が今年5周年を迎えた。22回を数え、会員は新たに28人が加わり185人と、当初の6倍にまで増えた。特に目的は持たず、まず知り合いになりましょうという気軽さで、苫小牧、札幌、函館からも参加、肩書や業種を超えた交流の輪が広がっている。

(粟島暁浩)



蘭参会5周年 室蘭

室蘭市官の森町の逢峽殿を会場に年4回開かれる蘭参会。参加には会員の紹介と役員の承認が必要だが、会合では新人会員の紹介や席替え以外は特になく、参加者が飲食を共にして名刺を交わし、会話を楽しむのがメインだ。

蘭参会は2009年(平成21年)2月、10人程度のメンバーを核にスタート。室蘭の「蘭」、食べ飲み放題の会費3千円と、参加の「参」を取って名付けられた。現在は500円アップしている。

■新たな連携

当初からのメンバーの西野義人・西野製作所社長は「元室工大CRDセンター長の加賀壽さんの声掛けて

有志が集まったのが始まり。最初は何の会か分からなかったが参加してなるほど楽しいと思ったという。キーワードは連携だ。圏域内で企業同士が連携するには、まずどういった人が実績があるのかを知らなければ難しい」と語る。

地域での異業種交流は、中小企業と室工大が情報交換する産学交流プラザ「創造」や、若手技術者の人材育成に向けた「北のものづくりIN室蘭」などがある。蘭参会は気軽な交流の中から相互理解を深める導入部分を担い、そこから発展して新しい連携につながる自然な流れもできている。

現に、函館市の五稜郭公園で開かれている市民創作函館野外劇の水上舞台を「創造」が無償で設計提案

会員6倍の185人に



5周年を迎えた蘭参会。22回会合では新たに28人が加わり、「この風景は壮観」との声も挙がった

したのは、蘭参会の交流も追い風になった。移転先を探す企業の事務所が見つかったり、仕事の依頼を受け、企業が知り合いを紹介す

るケース、学生の就職や趣味のつながりも生まれた。会長の室蘭テクノセンターのビジネスコーディネーター村上孝志さんは「室蘭

は企業と協力会社といった縦のつながりが強い。地域活性化、生き残りには横のつながりが重要」と蘭参会の役割の大切さを説く。

■顔触れ多彩

今年13日夜の蘭参会では、異動時期も重なり新たに28人が入会。会員の出席率も良く、札幌、苫小牧、函館を含め107人が駆け付ける盛況ぶりだった。

参加者も製造業に限らず金融、保険、建築、小売業から教員、教授、スナックのママと多彩だ。入会1年になる日本政策金融公庫の深谷祐次支店長は「企業経営者の持つ技術力や直面する課題など、現場の生の声がさつくばらんに聞ける。コミュニケーションの貴重な機会」ととらえている。村上会長は「蘭参会の良さを生かしながら、今後は勉強会の開催や機械設計の集団による新しいものづくりを目指す知的技術集団の活動などに発展できれば」と意欲をみせている。

函館野外劇を見学へ

新工法の舞台再構築にらみ 8月、企業も視察

室蘭「創造」総会

西胆振の企業、室工大で構成する産学交流プラザ「創造」(会長・北山茂二、アール・アンド・イー社長)の2014年度総会が27日

夜、室蘭市宮の森町の蓬岫殿で開かれた。「函館野外劇」を8月に見学するなど、新年度事業計画を決めた。議事では2013年度事

業報告と決算を承認。新年度事業では、8月8、9の両日、函館市を訪れ観劇に併せて地域の企業も視察する。



函館野外劇の見学などの新年度事業を決めた創造の総会

創造は五稜郭で毎年開かれている野外劇のために水上舞台の新工法を提案。その後、石垣の一部が崩れたため場所を変えての上演が決まり、案は棚上げになっている。事務局は「函館野外劇の会の里見泰彦事務局長は石垣の復旧後は創造の工法により舞台を再構築したい意向」と報告した。

このほか会員企業の現地見学と事業紹介を4回開き、7月に札幌市で開かれる「ものづくりテクノフェア」にも参加する。北山会長は「会員企業相互のつながりが濃密になり、ビジネスが成立するケースも出ておりプラスになっている。今後も一生懸命取り組んでいきたい」と抱負を述べた。
(栗島暁浩)



融雪システムについて質問する創造の会員たち 4月22日

西胆振の産・学・官 異業種交流

「創造」5年深まる連携

西胆振の製造業、自治体、室蘭工大などをつくる異業種交流団体「産学交流プラザ『創造』」が発足して5年がたった。毎月1回の例会や企業見学会などを通じて情報交換を行い、連携を深めている。一昨年から共同の事業にも取り組み、「ものづくりの街・室蘭」に根づく団体として実績を重ねている。

(福田謙平)

4月22日、登別温泉街の歩道で開かれた「創造」の本年度第1回の例会。会員企業から約20人が集まり、温泉排水を用いる融雪システムを見学した。開発したのは、会員企業の廃棄物処理業アールアンドイー(登録)。「コストは」「メンテナンスの方法は」。開発担当者らに参加者から製造業の視点で質問が飛ぶ。室蘭市内の居酒屋に移動してシステムの詳細な説明を行った後、恒例の懇親会に移り、杯を傾けながら親睦を深めた。

現組織の前身となる団体「創造」は2004年に発足。09年、同種の団体「室蘭地域環境産業推進コア」と合併し、「創造」の名称を引き継いだ。会員は33社。カメラ(室蘭)や三好製作所(室蘭)など金属製品や機械器具の製造業が大半で、日本製鋼所(室蘭)や函館造船製作所(室蘭)、函館造船製作所(室蘭)といった大手企業も名を連ねる。事務局は室蘭テクノセンターが務める。

元コア会長で、3年前に創造会長に就いたアールアンドイーの北山茂一社長は「画団体とも会員数は増えていたが、漫然と会にぶらさがっていただければ何かメリットがあるという程度の気持ちで参加している企業が多かった」と振り返る。結びつきが強い「本気」(北山会長)の組織にしよう、合併を機に会の体質も変えた。合併後は月1回の例会で情報交換するだけでなく、会員企業の見学会も実施。室蘭工大教授を招く勉強会も随時開く。連携が密になるにつれ、会員企業が互いに仕事を発注する事例が増

会員が相互発注、共同事業も

えたほか、会として事業の依頼を受けることもある。

第一弾はNHK室蘭放送局前の鉄製モニユメント「FURAI(風来)」の「延命化プロジェクト」。腐食などにより老朽化していたが、室蘭出身の造形作家篠原勝之さんが制作した芸術品のため設計図がなく、修復が難しいとしてNHKから話を持ちかけられた。室蘭の会員5社(樽崎製作所、日鋼デザイン、日鋼検査サービス、西野製作所、佐々木機工)が防食加工などを施し、11年に修復した。

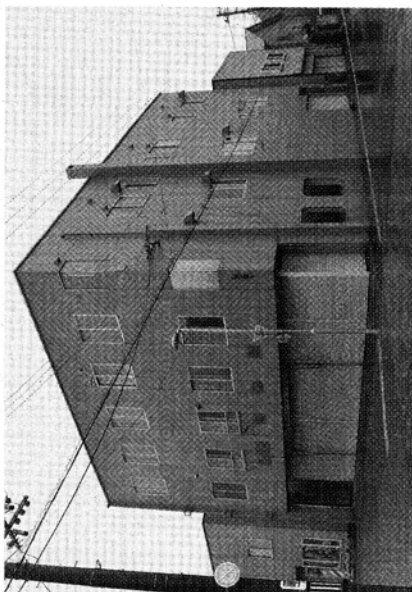
昨年は函館の国特別史跡・五稜郭跡で開かれる「函館野外劇」の水上特設ステージの設計を主催者から依頼され、無償で協力した。石垣の一部が崩落するアクシデントに伴い今夏の採用は見送られたものの、会則に定める「ものづくり力を高め、室蘭の産業振興に資する」という目的を着実に果たしつつある。

空き店舗に「知の拠点」

室工大、輪西活性化後押し

室蘭工業大学(佐藤一彦学長)は8月、室蘭市輪西町の商店街の空き店舗を活用し、新たな活動拠点施設を開設する。商店街の空き店舗を借りて大学施設を運営するのは全国的にも非常に珍しいユニークな試み。学生の自発的な地域活動を促し、地域住民への生涯学習支援や、子どもたちの進学志向を目標としたものづくり教室などを開き、輪西の活性化につなげる。同大は「大学、地域、商店街を連携し、さまざまなコミュニティを深めながらものづくり、人づくりに取り組むたい」と新たな挑戦に意欲をみせている。(成田真梨子)

大学を「知の核」との環。拠点場所は、した地域づくりを進め、かつて大手製鉄会社の「知の拠点整備事業」を前に進めた歴史(室工大のC構想)があるものづくりの



新たな活動拠点施設「室蘭工業大学アクト(仮称)」となる室蘭市輪西町の商店街の空き店舗(一部部分)

ものづくりや講座
学生主体で展開へ

チ・輪西を選んだ。名称は「室蘭工業大学アクト(仮称)」。アクトはギリシア語で「広場の意味」。基本は学生の自主活動を支援し、地域コミュニティに溶け込みながら地域活性化の相乗効果を図る。その上で、小学校の授業やアソシエーションなどの地域イベントに合わせ、ものづくり教室、高輪着向は公開講座、学生サークル活動、地域住民との対話の場、シブリアンサイクル関連の展示、ポルタ工房との連携など構想を膨らませている。

同大のものづくりセンターのものづくり教室には、例年約1500人の子どもたちの利用があるが、これ50

0~600人等新施設でカバーする考え。同センター長の清水一博教授ら大学関係者らでワーキンググループを作り、具体的な事業などを詰めていく。近く、市のまちづくり活動支援補助金を申請する。

齊藤康志副学長・広報室長・ゼネラルマネージャーと清水教授は「学生の自発的な活動を促し、地域活性化の拠点になれば、地域との関係を密にし、期待に応えたい」と話している。

これを受け、輪西商店街振興組合の土田昌司副理事長は「大歓迎。少しでもまちにきわみがでることを期待している。組合や輪西青年経営研究会も側面から支援したい」と喜んでいる。市企画財政部の奈良信一企画課長は「大学が商店街の空き店舗を活用するのは全国的にも非常に珍しいこと」と話し「学生たちに輪西に来てもらうことはまちの活性化につながる。市としても事業を積極的に後援したい」と話している。

室工大輪西に活動拠点



「室蘭工大テクノアゴラ」を開設する輪西町の空き店舗を下見する清水センター長(右)ら

8月にも

室工大は、大学が主体的に地域振興に関わる「地(知)の拠点整備事業(

ものづくり教室や公開講座 「地域活性化の一助に」

室蘭工大は8月上旬にも、室蘭市輪西地区の空き店舗に学生による地域活動の拠点「室蘭工大テクノアゴラ(仮称)」を開設する。近隣の子供たちを集めたものづくり教室や高齢者向けの公開講座を開くなど、学生が地域に出く活動することで輪西の活性化にもつなげたい考え。学外でのこうした拠点づくりは同大で初めて。(釜垣なの香)

OC事業)」に取り組んでおり、拠点開設はその一環。鉄鋼業で栄えながら「鉄冷え」で人口が減った輪西地区に、学生や地域住民が集う拠点を作ろうと昨年からの計画を進めてきた。輪西町この空き店舗1階を借り、拠点を定める予定だ。アゴラはギリシヤ語で広場の意味。

テクノアゴラは近隣の子供たちを招いたものづくり教室のほか、高齢者向けのストレッチ講座、廃船を解体して再資源化するシップリサイクルの展示などさまざまな形で週1回程度活用する。年間500〜600人の利用を見込む。

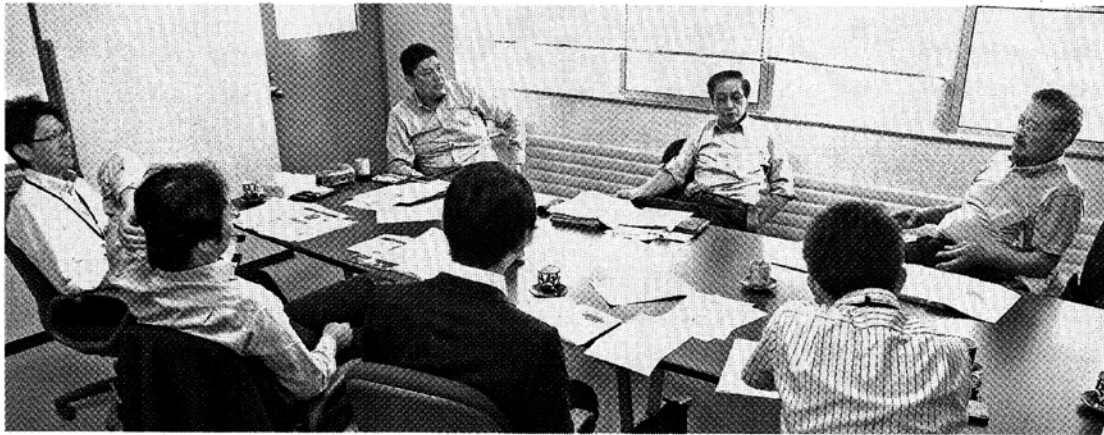
室工大は今後、テクノア

ゴラの使い道について学生から広くアイデアを求めらる。さらに、輪西地区の若い経営者らとの連携も深め、地域を巻き込んで活用していく考えだ。

完成イベントとして8月上旬にも、ものづくり教室を開催する。斎藤康志広報室長は「学生の自発的な活動を促し、地域活性化の拠点になればうれしい」と話す。

室工大ものづくり基礎センターの清水一博センター長は「学生が社会に出る前にいろいろな出会いや経験が必要。学生も成長するし、輪西の活性化の一助になれば」と話している。

胆振次世代革新塾の講座の内容充実に向けて意見交換する学・官・金メンバーら



企業活性化チーム学官金

「胆振次世代革新塾」誕生

8月下旬にも初講座

室 蘭

室蘭テクノセンターや室蘭信用金庫など4組織の実務者による企業活性化チーム「学・官・金室蘭」は、ものづくり企業など将来の地域経済を担う人材の学びと交流の場として「胆振次世代革新塾」を立ち上げた。7月中旬に塾生の募集を開始し、早ければ8月下旬にも初講座を開く。

(粟島暁浩)

チームはテクノセンターと同金庫、室工大、室蘭市産業振興課の担当者で構成。国の中小企業向け補助金の獲得に向けた手続き支援、直接訪問活動による経営支援などに取り組んでき

実施している「胆振経営革新塾」を発展させ、自己啓発と交流を深める。法政大と引き続き連携、テレビ会議システムを活用する。構成機関のつながりを生かし、講師を招へいした講座の実施も見込んでいる。

26日には室工大地域共同研究開発センターで、市内の企業経営者らと4組織の代表による会議が開かれた。塾のテーマは次世代の人材育成などを中心に、経営を担う層の学びの場とすることを確認。講座では経営課題を乗り越える力をつ

けたり、生産管理や営業、ものづくりの技術伝承、後継者の育成について掘り下げた案が出た。

初代塾長の西野義人・西野製作所社長は「企業経営者や経営の感覚を持っている人が課題に向き合い、考え、気が付きが得られる場にした」と期待。「後継者や社員を育てたい経営者、地域の将来を考えられる危機感を持った人に参加してもらいたい」と呼び掛けている。問い合わせは室蘭市産業振興課、電話0143・25局2704番へ。

胆振次世代革新塾長 西野 義人さん(42)

市や室蘭工大などでつくる「ものづくり企業活性化チーム学・官・金室蘭」は、地域の若手経営者たちが経営学などを学ぶ「胆振次世代革新塾」を8月下旬にも始める。4年前から続く「胆振経営革新塾」を発展させる形で「人材育成」を今年の主要テーマに掲げる。まとめ役の塾長を務める機械部品製造・修理、西野製作所(室蘭)の西野義人社長に、塾の狙いのほか、西胆振の中小の製造業の現状や課題を聞いた。

(福田講平)

「人材育成が今年のテーマが強すぎて、製造や修理などの技術を伝えようという意識が低い。一方、若手は教えてもらうのが当たり前と考えている。こんな話をしたところ、育ちづらいという話をしました。別の会社の経営者から『同じだ。弊社の場合ですと、ベテランと若手の(意識の)差があります。ベテランは『自分が頑張ればいい』という意識

が強い。製造や修理などの技術を伝えようという意識が低い。一方、若手は教えてもらうのが当たり前と考えている。こんな話をしたところ、育ちづらいという話をしました。別の会社の経営者から『同じだ。弊社の場合ですと、ベテランと若手の(意識の)差があります。ベテランは『自分が頑張ればいい』という意識



企業の人材育成に力

た

「人材が育ちづらいと考える背景や問題を教えてください。」

「かつて景気が右肩上がりだった時代は、大企業が下請

けに仕事の割り振りをしてくれました。今は昔のように仕事は来ません。人口も減り、働く場として敬遠され、募集をかけても人手が十分集まらない中小企業は多い。従業員が高齢化して仕事量をこなせないという会社もあるのが実情です。若い人材を育てておかないと、将来の街の機能を維持するにも支障が出かねないと感じています」



「塾の講座の具体的な内容は。」

「今、弊社で考えているのが、ベテランが若手を指導する役割を明確にするための『塾』作り。教えるベテランの名前を塾に付けてステータスを与えれば、若手を指導しやすくなると思います。講座で各社の取り組みや全国の事例を紹介しながら、悩みを話し合いたい。さらに会社の歴史を振り返る内容も盛り込みます」

「社員が自社の歴史を知る意義は何でしょうか。」

「自分が勤めている会社の歴史や背景を知らない社員は多い。若い人は与えられたものをうまく利用するのは上手ですが、システムそのものを作り上げる創造性に欠けます。今ある設備や技術、システムがなぜ導入されたのか、この部品を作る背景には何かあるのか。これらを知ってほしい。経営感覚を持つ人材を育てたいので、若い社員にも塾に参加してほしい」



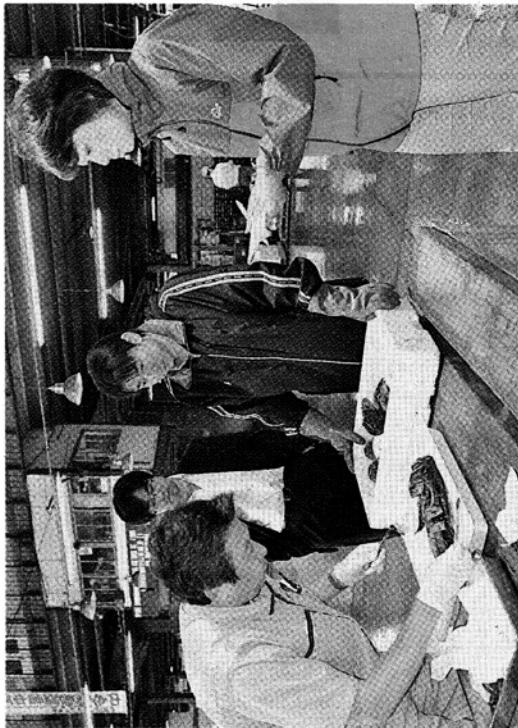
自社で作る部品を手に、人材育成の重要性を語る西野さん

にし・よしひと 1971年室蘭市生まれ。室蘭工業高、北海道自動車短大を卒業後、92年に父親が経営する西野製作所入り。08年から社長。室蘭市在住。西胆振の製造業や大学などが連携し仕事の共同受注を目指す「北のものづくり総合技術交流会」の会長も務める。

魚の鮮度保て

水産物の鮮度保持や衛生管理に効果があると
して、海水から製造した「シャーベット海水氷」
が注目されている。効果を実証実験で確認し水
産物振興に生かそうと、室蘭工業大学の古屋温
美准教授が研究に取り組んでいる。14日はその
第一弾として、専門家を交え、魚の水揚げ時か
ら市場を经て消費地に到着するまでの、従来の
鮮度保持の実態を調査した。(成田真梨子)

大工室



魚の鮮度保持の実態調査をするため身の一部を
切り取ってサンプルにする吉岡主任研究員(左)
と調査状況をメモする古屋准教授(右)

古屋准教授は水産物を核とした
地域振興を研究。市農水産課とタ
イアップし、室蘭漁協や室蘭魚市
場、製氷機を製造するニッコウ(釧
路市)、回海水氷に関する専門家
で専立工業技術センター(函館市)
研究開発部の吉岡武也主任研究員
の協力を得て研究を進めている。
「室蘭市の水産物の適切な鮮度保
持対策に関する研究」として、同
大から研究推進経費80万円の助成
を受けた。

■硬くなりすぎず

市内では室蘭港(崎守地区、絵
柄地区)、追濱漁港、イタノキ漁
港の4カ所で水揚げされた水産物
を市公設地方卸売市場を经て、市
内はじめ札幌、東京の消費地へ出
荷している。水揚げ時に魚が興奮
して暴れ、体温が上昇し品質が劣
化するため、鮮度保持には迅速な
施氷が重要。

回海水氷はマイナス2度で、魚
は暴れることなく冷やしてしま
れ、鮮度が保たれ硬くなりすぎな
い。従来の固形の氷片で魚体を傷
つけることもない。道内では松前
さくら漁協の製氷施設や歯舞漁協
のサシメ漁船に製氷装置が導入さ
れているほか一部地域で実践され
ているが、まだ一般的ではない。

この日は午前5時20分ごろ、追
濱漁港に漁船が到着。同3〜5時

にかけてイタノキ沖の定置網でと
れたブリやクロダイ、ヒラメ、イ
シガシイの4種(各2〜4尾)を
サンプルにした。同漁港で吉岡主
任研究員が中心となり、魚体の温
度計測や菌、身の一部を採取し魚
市場まで運んだ。「魚市場までは
近距離」とあって、従来の氷漬
けせずに運搬。

■付加価値が必要

競りが終わった8時すぎにもち
一度身の一部を切り取った。魚体
に温度計を差し、固形の氷漬けを
して梱包。夜にトラックで輸送さ
れ、翌15日未明に函館に到着
する。午前中に再び身の一部を切
り取り、各サンプルを1週間ほど
かけて分析し、劣化の程度や細菌
の発生鮮度などを調べる。8月に
魚種ごとに鮮度保持対策を検討。
9月に製氷機の導入を導き、
回海水氷を使った場合のデータを
収集、今回と比較する。10〜12月
に評価をまとめる。

古屋准教授は「水揚げから流通
までの低温管理で、よりの新鮮な魚
を届けられることを実証したい。
シャーベット海水氷を使うのと使
わないのでは差が出るはず」と
語る。吉岡主任研究員も「シャー
ベット海水氷を使って根室のサシ
メを台湾に運んでみたが、鮮度は
よく保たれていた」と語る。市農
水産課の相原清一主幹は「魚価が
低迷している中、鮮度保持や衛生
管理の付加価値をつけることが必
要。科学的手法での実証実験を一
々を基に、漁港の整備、流通の課
題を抽出できるのではないかと
期待を寄せている。

「海水氷」の効果実証へ

胆振の技術力もPR

ものづくりテクノフェア

札幌

【札幌】北洋銀行（石井 4）が24日、札幌市白石区純二頭取）主催の「ものづくりテクノフェア2014」を開いた。胆振管内からも「胆



多くの来場者の関心を集めた「胆振総合振興局」ブース

振総合振興局」と室蘭工業大学がそれぞれブースを構え、優れた技術力をPR、来場者の関心を集めていた。従来より大きい会場に変更したことで過去最大の196社・団体が出展。北海道中小企業総合支援センター主催の「ほっかいどう受発注拡大商談会」を同時開催し、商談機会の拡大も図った。胆振総合振興局ブースには室蘭市中島町の「ドリームエナジー」と「アイスジャパン」、登別市富浦町の「アール・アンド・イー」、同市千歳町の「北海道曹達」、伊達市弄月町の「浪越石材」、洞爺湖町入江の「東洋炉材」、苫小牧市の「木の繊維」の7企業・団体が自社商品を展示。このほか各市町による企業立地助成制度なども紹介した。初参加のドリームエナジーは障がい者が制作した結露防止器具「ECOヒーター」をPRし、胆振管内の旅館・ホテルや病院での活用例を紹介した。東洋炉材は試作品の小型コンロ「はちりん」と防災グッズ「ななかまど」をアピール。いずれも薫製器としても利用できるほか、蓄熱効果に優れ、災害時には簡易ストーブ

としても活用できるといふ。新田裕基代表は「今秋までの商品化を目指します」と語った。

このほか室蘭工業大学が地域共同開発センター（CRDセンター）の取り組みや、羊毛廃棄物やシラカバからプラスチックを製造する技術などをパネルで紹介した。

（北川誠）

魚の鮮度を研究する室蘭工大准教授

古屋 温美さん(47)

室蘭工大の古屋温美准教授は、室蘭港で水揚げされた水産物の鮮度をより良く保つ研究に取り組んでいる。クロソイなど魚の身をサンプル採取し、水揚げ、競りなどの流通段階ごとに出荷先までの鮮度を調べる。「室蘭の水産物の付加価値を高めたい」とする古屋准教授に、研究の意義や、水産振興の活動への取り組みなどを聞いた。(芝垣なの香)

「一回目の調査を7月に、水揚げ直後から、海水を切り出し、市場では魚体温の測定器を魚に刺して梱包して出荷しました。」

「出荷先の函館に届いた時には、クロソイなど北方系の魚は鮮度落ちが早く、プリなどの南方系は遅いという傾向が数値で示されました。9月には製氷機を漁船に持ち込

「研究にはどのような狙いがありますか。」

「道内では一般的に、『魚を捕って市場に出すまでが自分たちの役割だ』と

水産通じ室蘭振興を



「大学として、水産を通じ地域振興に寄与できれば」と話す古屋准教授



る漁業者が多いように感じます。その中で渡島管内松前町や根室市など先進的な地域では、水揚げ直後から水産物を低温管理しています。捕った魚がどういう状態で流通に乗るといくらで売買されて消費されているかというのを知っています。研究を通し、

室蘭の美味しい水産物の付加価値を高めて流通させる方法を漁業者の皆さんと一緒に考え、提言していきたい」

「センターは室蘭工大の教員の研究を企業のニーズとマッチングさせるのが主な役割です。企業と共同研究などを行う際、外部資金を獲得できるように助言するのが私の担当です。地域に役立つことを目指し、産学連携を進めたいですね」

「NPO法人『リネットワーク』(札幌)の理事長も務めています。どのような活動をしていますか。」

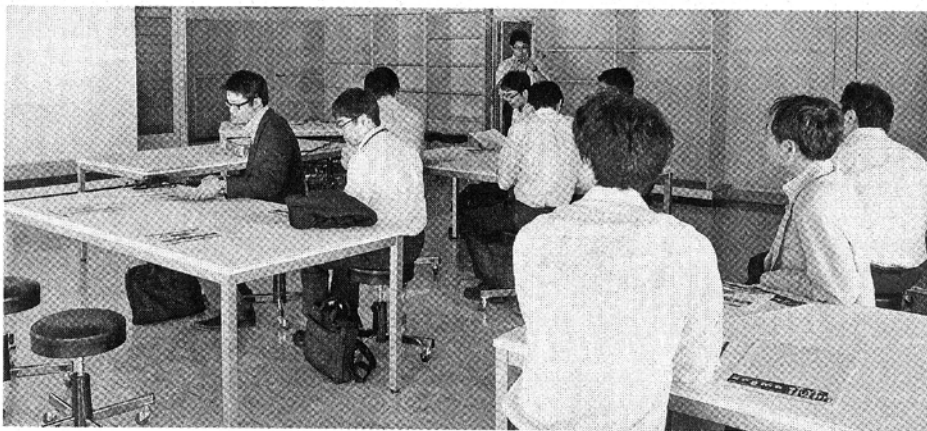
「水産にまつわる異業種、異分野の皆さんと交流し、地域の課題解決に取り組むことを目的に、12年に立ち上げました。会員は北大、道庁、道内の漁業地域の関係者ら約130人。勉強会の開催のほか、魚の美味しい店や加工品を紹介するサイトも製作中です」

ふるや・あつみ 66年、旭川市生まれ。北大工学部を卒業後、札幌の建設コンサルタント会社に就職。2001年に退社し、有限会社マリンプランニング(札幌)を設立。07年から北大大学院水産科学研究院の特任准教授。13年1月から現職。工学博士。室蘭市在住。

ものづくり拠点見学

■東日本の工業都市担当者一行■

東日本の25工業都市の産業政策担当者でつくる、産業のまちネットワーク推進協議会の一行が28日、室蘭市を訪れた。輪西町で開設準備が進む、大学と地域、商店街が連携したものづくり拠点・室工大テクノアゴラ（仮称）の説明を受けたほか、研究会での討論を通して室蘭の産学官連携の取り組みに触れた。（粟島暁浩）



産学官 室蘭に熱い視線

同協議会は、ものづくり産業の振興を考えるグループで、1996年（平成8年）発足。構成自治体の持ち回りで毎年定例会を開いており、室蘭市開催は2002年以来2回目。今回のテーマは産学官連携で、東京都大田区などからメンバー22人が来蘭した。輪西町のアゴラでは、室工大の担当者がコンセプトなどを説明。空き店舗を活用し、ものづくり教室や公開講座などを実施する計画や、地元企業と連携したシブプリサイクル事業についても伝えた。

研究会には室蘭を含む14都市26人が参加。産学交流

開設準備が進む室工大テクノアゴラ（仮称）で説明を受ける協議会メンバー

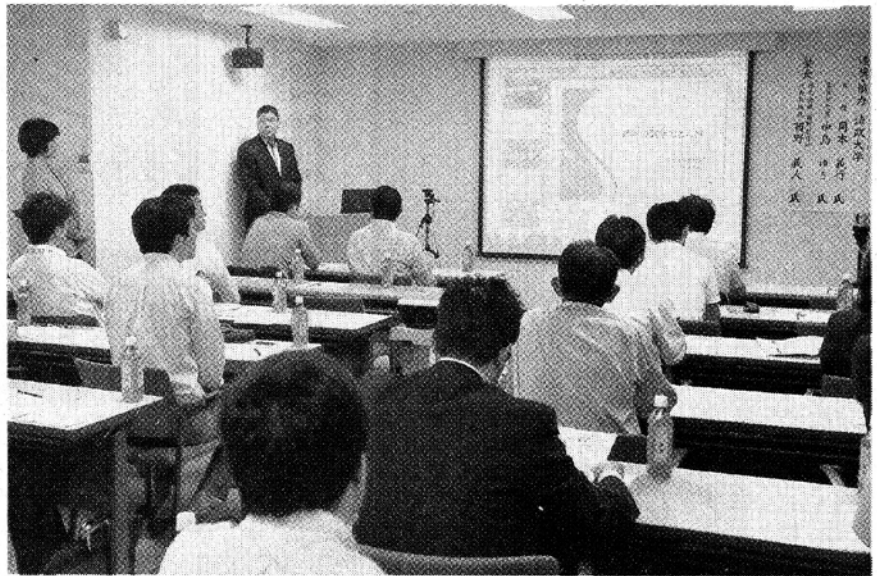
プラザ創造が取り組んだモニュメント「FURAI」
 延命化プロジェクトの説明後、6グループに分かれ意見交換。国の補助金獲得に向けて企業支援している「学・官・金室蘭」など具体的な事例を踏まえ、産学官連携について討論が続いた。一行はボルタ工房で逆立ちボルタの製作も体験。きょう29日は精密金型部品の製造加工のカメラを見学する予定。

室
蘭

胆振次世代革新塾が開講

問題解決力 養う

将来の地域経済を担う若い世代の人材育成に向けた学びと交流の場、胆振次世代革新塾(塾長・西野義人、西野製作所社長)が28日、水元町の室工大地域共同研究開発センターで開講した。30〜40歳代を中心に28人が、新機軸を打ち出せる人材に欠かせない問題解決



室工大地域共同研究開発センターでスタートした胆振次世代革新塾

力を学ぶ講義に入った。塾には室蘭、登別の製造、建築、サービス業などの社員らが登録。西野塾長は「塾で問題を顕在化させ解決する能力を身に付ける契機になれば。共にイノベーション人材となるべく頑張りましょう」とあいさつ。講座では、法政大と室工

大をテレビ会議システムで結び双方講義を展開。法政大大学院の岡本義行教授が「日本の競争力と人材」について講話。
岡本教授は、学歴と仕事についての国際比較で、日本は高学歴でも仕事に有利とは言えず、企業内で先輩が仕事を通じて教育するOJTが伝統の現状を指摘。「この部分から日本の成長戦略を考えた方がいい。みなさんと議論し、どうすべきか、大学をどう変えるかを考えてほしい」と問題提

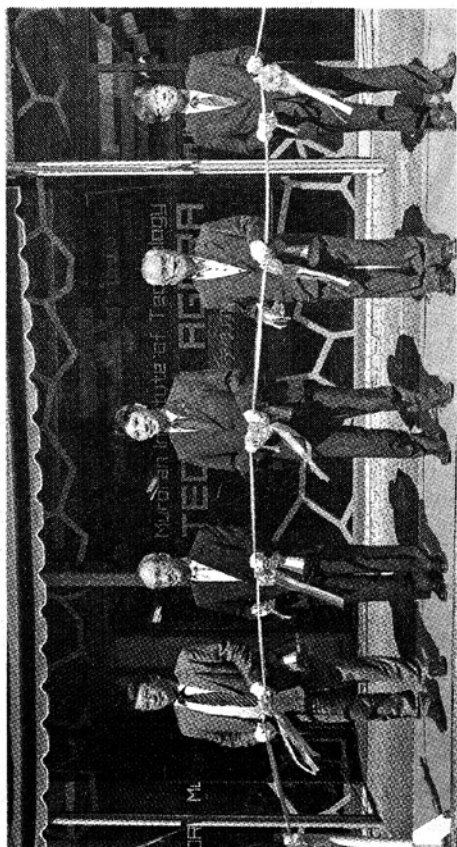
起。参加者はグループ討論を通して、大学、企業の人材育成を考え合った。
同塾は室蘭テクノセンター、室蘭信用金庫、室大市の実務者による企業活性化チーム「学・官・金・室蘭」を事務局に発足。国の補助金獲得に向けた企業の手続き支援などに加え、人材育成を積極的に進める。西胆振産学官ネットワークが実施してきた胆振経営革新塾を発展させ、11月まで7回の講義を実施する。
(粟島暁浩)

地域活動拠点 開所祝う

室工大「アゴ」 輪西活性化へ

室蘭工業大学(佐藤一彦学長)の新たな活動拠点施設・室蘭工業大学「アゴ」が8日、室蘭市輪西町2にオープンした。同日、開所式が行われ、関係者によるテープカットや施設見学が行われた。市民向けの公開講座やものづくりの教室、学生の自主的活動の場として活用される。大学、地域、商店街がコミュニケーションを深め、ものづくりや人づくりに取り組み、輪西地域の活性化を後押しする。(成田真梨子)

施設の開設は地域貢献や、大学を「知(地)の拠点」とした地域づくりを進める「室工大COC構想」の一環。場所は商店街にあるアパート1階の空き店舗を活用した。商店街の空き店舗を借りて大学施設を運営するのは、全国的にも非常に珍しい



室蘭工業大学の新たな活動拠点施設「アゴ」の開所式で行われたテープカット

学生主体、市民講座や教室に活用

ユニークな試み。名称の「アゴ」はギリシャ語で「広場」の意味。

午前10時からの開所式には約40人が出席。佐藤学長は「新しい息吹、芽生え、コミュニティが生まれることを願っています」とあいさつ。来賓の青山剛市長は「鉄のまちの中心に、次世代の人材を育成する素晴らしい拠点ができた」、輪西商店街振興組合の土田昌司理事長は「多くの人が集い、輪西の活性化になれば」と喜びを述べた。

その後、佐藤学長ら3人に、清水一導・同大のものづくり基盤センター長、アゴを応援する会代表の楠本賢太さん・同大博士後期課程3年1組が加わってテープカットした。

続いて施設見学が行われた。「理系応援女子プロジェクト」の紹介や巨大シンギスカン鍋、ステンレス製で全長約3mの恐竜の骨格模型、リサイクル関連の展示などが行われ、清水センター長らが解説し、見学者は見入っていた。

施設活用第1弾として、13、14の両日には、札幌の女子高生たちが訪れて鋳造実習などに取り組む「理系女子応援プロジェクト」を実施する。その後の事業については清水センター長らワーキンググループで話していく。

夕刊

室蘭民報

MUROMIN

10月11日 土曜日

2014年(平成26年)

室蘭民報社

(代) 0143-22-5121

☎ 0143-24-1337

〒051-0015

室蘭市本町1-3-16

© 室蘭民報社2014



テクノアゴラで行われた次世代革新塾

「利益あると堅実に」

胆振次世代革新塾講座 行動パターン学ぶ

室蘭

将来の地域経済を担う若い世代の人材育成に向けた学びと交流の場、胆振次世代革新塾(塾長・西野義人、西野製作所社長)は9日夜、室工大の新たな活動拠点施設・室蘭工業大学テクノアゴラで4回目の講座を開いた。

同塾は8月23日に開講。4回目となった講座には塾生約30人が参加。崇城大の永松俊雄教授が「選択を科

学する」をテーマに講話。自分の行動を決定しているルールについて学んだ。

例として100万円友人から借りていて、無条件で半分になると、コインが表ならゼロで裏ならそのままという2択ならどちらを選ぶかを問い「人間は利益や報酬があると堅実になる。逆に不利益が目前にあるとリスクがあっても勝負したくなる」と指摘。利益

もリスクも大きいハイリスク・ハイリターンを求める人もあり「同じ人でも違う行動をする。自分の行動パターンを知る必要がある」と述べた。次回28日は、今回のテーマを基にディベートを行う。

(栗島暁浩)



水素エネルギー社会をテーマに開かれた
フロンティア技術検討会

水素発電技術が有望

フロンティア技術検討会

室蘭市民らが知識深める

第26回フロンティア技術検討会(室蘭地域産学官連携事業実行委員会主催)が16日、室蘭市宮の森町の蓬麻殿で開かれ、専門家4人の講演を通して水素エネルギー

社会実現に向けた課題を探った。

市民、企業担当者ら120人が参加した。最初に新エネルギー・産業技術総合開発機構の吉積潔氏が水素社会実現への課題に①水素利用の飛躍的拡大②水素発電の本格導入③こみを出さない水素供給システムの確立を挙げ「家庭用燃料電池、燃料電池自動車に次ぐ第3の水素利用として水素発電技術が有望」と指摘した。

水素貯蔵・脱水素装置の開発・販売、フライン・エナジー(札幌)の小池田章社長は風力発電で水素を製造する「グリーン水素プロジェクト」を説明。トヨタ自動車の萩原靖仁北海道近畿地域統括部長は、燃料電池自動車の開発状況を紹介した。

最後に室蘭工業大学の田邊博義准教授が、炭素ナノ材料を素材とした次世代燃料電池について講義した。市民らは水素関連のさまざま知識を深めていた。

(山田晃司)

夕刊

室蘭民報

MUROMIN

10月22日 水曜日

2014年(平成26年)

室蘭民報社

(代) 0143-22-5121

☎ 0143-24-1337

〒051-0015

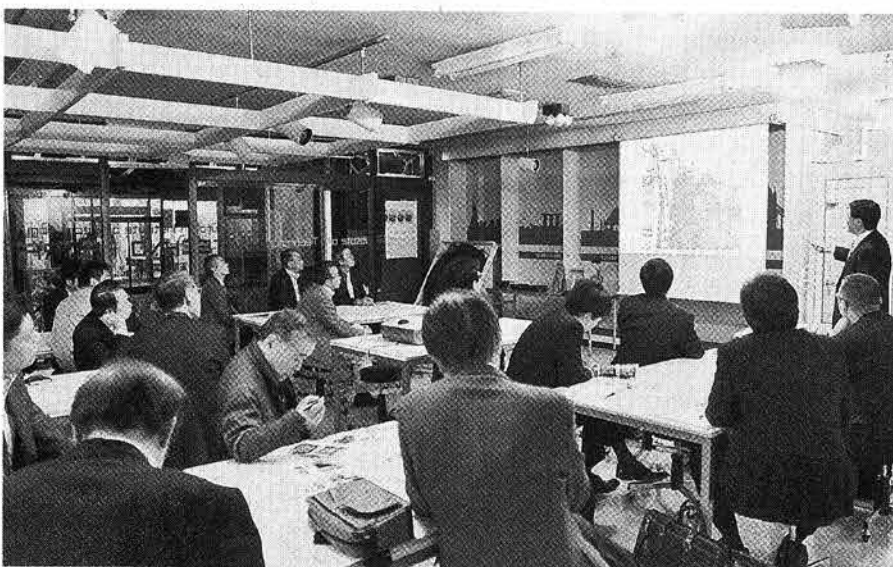
室蘭市本町1-3-16

© 室蘭民報社2014

室蘭でシリーズ発表会

小水力発電を学ぶ

産学交流プラザ創造



小水力発電について学んだ創造のシリーズ発表会

西胆振の企業、室工大で構成する産学交流プラザ創造(会長・北山茂一・アール・アンド・イー社長)は21日夜、同大の活動拠点・テクノアゴラ(室蘭市輪西町)でシリーズ発表会を開いた。小水力発電に着目し、新たな開発テーマを求めて見識

を深めた。創造はこれまでNHK室蘭放送局前のオブジェ・FURAIの再生事業や、函館野外塾の水舞台設計など、大学と企業間の連携でプロジェクトに取り組んでいる。今回は小水力発電を研究する同大くらし環境系領域社会基盤ユニットの中津川誠教授を講師に招いた。小水力は出力1万kw以下

の発電を指す。中津川教授は、山梨県都留市の小水力市民発電所の試みを紹介。「上掛け、下掛け、らせんの3種類の水車を市街地の水路に導入した。売電だけでなく一部電力はエコハウスの暖房、植物工場に利用し付加価値をつけている」と指摘した。

太陽光や風力と比べ、水力は設備が60年と長持ちする点から「発電コストが低く設備稼働率が高い。水さえ確保できれば人為的にコントロールした発電ができる」と強調。同大が研究した空知川の金山タムの事例では、洪水に備えて水が貯められる容量分を小水力に活用する手法も伝えた。

法規制などの課題はあるものの「普通河川であれば室蘭市内にも存在し、小水力発電ができる可能性がある」とした。メンバーからは「創造として何かできないか」との声が挙がり、さらに検討を深める方針だ。

創造は35社の企業と室工大でつくり、情報交換や企業見学会などを通して連携を深め、一致協力して研究開発に取り組む。事務局は室蘭テクノセンターが担っている。(粟島暁浩)

冬の防災対策万全に

学識者、行政が情報共有



「冬の防災・危機管理を考える」をテーマに開かれた「北海道防災・減災リレーシンポジウム」

室蘭でリレーシンポ

「北海道防災・減災リレーシンポジウム」が23日、室蘭市宮の森町の蓬岫殿で開かれ、学識者や行政関係者が「冬の防災・危機管理を考える」をテーマに、雪氷時の津波被害や、土砂災害などに関する情報や考え、今後の防災対策などについて意見交換。地域の特性に合った防災・減災対策の実現に向けて情報の共有を図った。

(松岡秀宣)

パネルディスカッションでは冬の災害への備え、土砂災害や噴火に関わる危機管理などについて、学識者と国・道・自治体担当者が多角的に議論。室蘭開発建設部の原俊哉部長は砂防事業、情報伝達強化、図上訓練など、樽前山噴火に備えた現状を解説。「ハード、ソフト両面を組み合わせて進めている」と話した。胆振総合振興局の山田耕三副局長は、昨年8月の道東地方の暴風雪被害を踏まえ、「空振りを恐れず、道

道の) 通行規制に取り組んでいる」などと話した。室蘭市の大柴茂総務部長は、今月から土砂災害避難

勧告基準をあらためた状況を説明。土砂災害警戒情報発表「土砂崩れなどの前兆現象が見られる」の要件のうち、どちらか一方を満たした場合での勧告発令や、午後10時までに避難準備情報を出す仕組みに変更した事など「一歩踏み込んだ対策」と説明した。

一方、室蘭工業大学大学院工学研究科の木村克俊教授は「冬の津波に備える」をテーマに講演。氷塊群による施設被害拡大、がれきと氷の混在による道路啓開や復旧活動の遅延、避難の遅れなど、雪氷期津波の「上乗せリスク」を示した。

北海道大学大学院農学研究院の南哲行特任教授は「大規模土砂災害と危機管理」について解説し、積雪期の火山災害や泥流対策の重要性などを説明した。

シンポジウムは北海道大学、室蘭工業大学、北見工業大学の主催。北見(今月

17日)、室蘭、札幌(今月30日予定)の順で開催される。室蘭会場では行政や企

業関係者、市民ら約130人が耳を傾けた。

室工大「シャーベット海水氷」

鮮度保持効果の実証実験第2弾

室蘭工業大学の古屋温美准教授による「シャーベット海水氷」を使った魚の鮮度保持効果の実証実験第2弾が、27日に行われた。魚の水揚げ時に同氷を使った場合と、従来通りの方法で

鮮度保持した場合、K値(科学的な鮮度指標)や魚体表面の細菌数にどのような違いが出るのかを調査した。水揚げ時に魚が興奮して暴れると体温が上昇し、品質が劣化するため、鮮度保

持には迅速な施氷が重要。同氷は海水から製造し、マイナス2度でシャーベット状になっており、魚は暴れることなく冷えて締められ、従来の固形の氷片で魚体を傷つけることもない。道内では松前や歯舞漁協など一部地域で導入されているが、また一般的ではない。古屋准教授は同氷を活用した「室蘭市の水産物の適切な鮮度保持対策に関する

研究」を行っている。市農機を製造するニッコー(釧路市)、同海水氷に関するの吉岡武也主任研究員の協力を得て取り組んでいる。



シャーベット海水氷を使った魚の鮮度保持効果の実証実験を行う古屋准教授(右)と吉岡研究員(左)



包括協力協定に調印して握手を交わす
佐藤学長(右)と岡田社長

株式会社三徳・国立大学法人室蘭工
包括協力に関する協定書

国内唯一の希土類有効活用研究組織「環境調和材料工学研究センター」(平井伸治センター長)が設置されている同大と

希土類研究で 包括協定締結

室蘭工大と三徳

同社の相互発展が目的。協定の期間は2016年(平成28年)9月30日まで2年間。

10月1日、学内に寄付講座「三徳希土類講座」を開設。元同社技術部長の中村英次特任教授を代表とする研究スタッフが同社からの寄付金を活用して研究活動を行う。

協定書調印式には同大、同社の担当者と来賓計11人が出席。佐藤学長と岡田社長が協定書に調印した。岡田社長は「産学連携による希土類研究の先駆けとして社会に貢献していきたい」、佐藤学長は「研究者の国内外にわたる研究拠点形成、文科省からの支援の獲得増につながる」と期待を述べた。(山田晃司)

「蘭扇」好評、大きな手応え

香港直送、販路拡大模索の室蘭漁協

道産品の輸出拡大と物流活性化を目指し、道産発局などで構成する「北海道国際輸送プラットフォーム推進協議会」が、1日に香港で試食商談会を開催。室蘭からは「蘭扇」が直送されていた。

古屋准教授は、シャット海水氷を活用した「水産物の適切な鮮度保持対策に関する研究」に取り組ん

でいる。水産業を核とした地域振興を研究する一環で、試食商談会に同行。室蘭から香港までの輸送中の温度変化を確認したほか、現地の飲食店関係者からホタテの品質について聞き取

工大・古屋准教授が報告



室蘭漁協(室村吉信組合長)は、ホタテ3年貝「蘭扇(らんせん)」の輸出による販路拡大を模索している。室蘭工業大学の古屋准教授(水産・海洋公共政策)が5日、香港に直送した「蘭扇」が飲食店関係者から好評だったと報告、漁協関係者が大きな手応えを得た。(松岡秀宣)

の調査を行った。

報告では「刺身好き、貝好き、産地をよく聞く」などといった香港人の好みを指摘。「鮮度は築地から入るホタテ貝と比べて格段の差があり、蘭扇の品質の良さに驚いた」との声が居酒屋から寄せられた。また、「道産は鮮度で勝負。ただし、輸送方法や梱包は、まだレベルが低い」などとする意見もあったと言った。

室蘭のブランド貝「蘭扇」は、殻長12.5センチ以上の3年貝。大粒の貝柱と品質の良さが高い評価を受け、贈答用として首都圏などに出荷されている。同漁協では2年貝を2012年(平成24年)から韓国へ輸出しているが「蘭扇」の海外直送は今回が初めて。

同漁協の野村隆浩事務理事は「今回は試験的に実施したが、鮮度が保てることを確認できた。(輸送費を含めた単価的にも)十分に勝負できると分かった」と語り、販路拡大への手応えを説明する。

漁協と古屋准教授は、来年1月にも香港に「蘭扇」を直送し、飲食店関係者とのヒアリングを再度実施する。



室蘭地方の企業や団体が自慢の技術をPRしたビジネスEXPO

室蘭地方の技術PR

札幌でビジネスEXPO

【札幌】道内最大級のビジネスイベント、第28回北海道技術・ビジネス交流会「ビジネスEXPO」(同実行委員会主催)が6日か

た、札幌市白石区のアクセスサッポロで始まった。道内外から過去最大の356

企業や団体、大学が出展。室蘭地方の企業・団体も自社の技術や商品をアピール

している。7日まで。

「ものづくり・電気・機械ビジネス展示ゾーン」の

室蘭テクノセンターのブースには、室蘭市から三好製作所室蘭工場と佐々木機

工、馬場機械製作所の3企

業と登別市のカムイ電子の計4企業が出展。

今回初参加の馬場機械製作所は、特殊鋼を用いた材料評価試験の資材製造などを紹介。チタンなどの超硬質金属のような難削材加工に特色がある。2年連続参加の三好製作所はすべり止め加工付きメラニン食器などを展示。丈夫で軽く、安全なことから需要が増えているという。

佐々木機工は一体型免震装置を紹介。建物完成後でも免震が可能で、パソコンのサーバーや医療機器、美術品などさまざまな場所で

活用されている。「室蘭市役所のパソコンサーバーにも使用されています」とPRする。初参加のカムイ電子は、タブレット端末と社内パソコンを組み合わせた受付対応システムを展示。来客がリアルタイムで社内のパソコンに反映され、人感センサーや指紋認証なども設置可能で、汎用性がある。

会場ではこのほか、室蘭工業大学の動物性タンパク質を用いた高機能性樹脂開発やホタテ貝殻を用いた日焼け止め、アール・アンド・イー(登別)の耐摩耗鋳鋼、洞爺湖地場産品協同組合のとうや湖あか毛和牛が紹介されている。

(北川誠)

本道発展の礎に

室工大 連携協定結ぶ 道総研

室蘭工業大学(佐藤二彦学長)と道立総合研究機構(丹保憲仁理事長)が14日、連携・協力協定を結んだ。双方の研究開発の推進、人材交流・人材育成、研究資源の共有、広報活動などを推進し、地域の産業や経済

の発展に寄与する。

道総研は2010年(平成22年)4月、22の道立試験研究機関を統合してスタート。北海道の農業、水産業、林業、工業、食品産業、環境、地質、建築の広範にわたる研究開発や技術支援などを行っている。

協定調印式では佐藤学長と丹保理事長が協定書に署名し、握手を交わした。丹保理事長は「工業系大学が一次産業を支えてくれることを期待し、次の10年の大きな礎にしたい」、佐藤学長も「研究開発、人材育成機能を持ち寄り、その成果を北海道の経済活性化に役立たせたい」と述べた。

(成田真梨子)



連携・協力協定を結んだ室工大の佐藤学長(左)と道総研の丹保理事長(右)

夕刊

室蘭民報

MUROMIN

12月17日 水曜日

2014年(平成26年)

室蘭民報社

(代) 0143-22-5121

☎ 0143-24-1337

〒051-0015

室蘭市本町1-3-16

© 室蘭民報社2014

地域と発展へ 意見を交わす

室工大で市民懇談会

室蘭工業大学(佐藤一彦学長)の2014年度(平成26年度)市民懇談会が16日、同大で開かれた。学内外の委員15人が顔を合わせ、同大が地域とともに発展するために意見交換した。

佐藤学長ら学内委員と、室蘭・登別・伊達の3首長ら、経済、産業、教育、言論界の関係者、室蘭市民ら学外委員が参加。前半は花島直彦准教授の「地域に貢献できるロボット技術について考える」、古屋温美准教授の「食関連産業の国際化と地域資源で稼ぐ地域へ」室蘭産鮮魚の高付加価値化と輸出など新たな流通への取組と課題」と題した地元密着の研究が紹介された。

後半は「地方創生と大学

の役割」をテーマに懇談。「大学と地域産業との連携を密にし、共同研究して市場開拓まで取り組めたら」「地域産業の現場はさまざまな課題を抱えている。工学的な観点で示唆する人を積極的に結びつける仕組みが必要」「頭脳の拠点は大きな財産。フル活用することを考えて」など活発な意見交換がされていた。

(成田真梨子)



「地方創生と大学の役割」をテーマにした室蘭工業大学市民懇談会

工大生と住民 ものづくり交流

テクノアゴラを応援する会

16日小中学生向け体験



スズを溶かしてキーホルダー作りなどを楽しむ鋳造体験学習

私たち「テクノアゴラを応援する会」は、2014年9月8日に開設しました「室蘭工業大学テクノアゴラ」において室蘭工業大学の学生主体で地域住民と交流を図ることを目的として活動しています。この室蘭工業大学テクノアゴラは、室蘭工業大学の地域貢献やCOC構想「知(地)の拠点」の一貫として、テクノカフェや公開講座の実施など、地域住民の協力を得て学生が地域に出て活動を行う拠点として輪西地区に開設されました。

現在、小中学生を対象とした鋳造体験学習を1月16日(金)に計画しています。この鋳造体験学習では、理科や社会で学習した内容、身近な現象や製品を例に挙げることで勉強と体験学習(スズを溶かしてキーホルダーやカントリーサインの作製)を組み合わせた内容となっています。小中学生には、理科やものづくりの楽しさの実感・学習意欲の向上、更には室蘭工業大学の学生が「ものづくり教室の先生」を担うことで学力意識の向上に寄与できればと考えています。

私たちの活動が今後の学外活動の先駆けとなり、室蘭工業大学の学生がテクノアゴラの活用およびさまざまな企画の実施につながるよう試行錯誤してまいります。

この機会に多くの小中学生の方々にご参加いただければと思います。

代表	楠本 賢太
E-mail	s1826032@mnm.muroran-it.ac.jp

経営力アップ手応え

室蘭の革新塾 本年度終了

4年間続いた経営講座「胆振経営革新塾」を発展させた「胆振次世代革新塾」(塾長・西野義人西野製作所社長)が本年度の日程を終えた。これまでと同じように室蘭工大と法政大をテレビ会議で結んだ上で、今回は講義中心ではなく、討論しながら問題解決策を自ら考える実践的な内容。室蘭にいながら最先端の経営論を学ぶ場として、関係者は手応えを感じている。(津野慶)

2010年度に始まり、昨1、室蘭工大の実務担当者ら年度は室蘭工大などによる西が13年度に設立した「ものづくり企業活性化チーム」学・官・金・室蘭」が主催。「胆振次世代革新塾」とあため、問題解決能力を身につけることを目標に昨年8〜11月に計7

討論した題材「職場でも」



回開き30〜50代の会社役員や中堅社員、市職員ら28人が受講料1万2千円で参加した。集大成となった昨年11月20日の最終回は「活性化してい

さまざまな経営改善策をグループ討論で考えた本年度の胆振次世代革新塾。室蘭工大地域共同研究開発センター

る組織とは、どのような状態か」を討論。受講生は4グループに分かれて話し合い、「自由な意見が言える」「能力が公正・公平に評価されている」「福利厚生が充実し、実際に使われている」などとグループごとに発表した。

それでは組織の腐敗を招いてしまう。きれいごとではなく、こういふ話を取り上げて考えてほしい」と実践的な思考を求めた。その上で「このようなテーマを月1回は職場で話題にしてほしい」と、組織改革の実践を呼び掛けた。

この様子をテレビ会議システムで見ている講師の北原正敏・元法政大大学院教授(元花王取締役)は「ドロドロとした具体例をもっと出して考えてほしい」と問題点を掘り起こすよう指示。「確かに言

洋常務は「ふだんじっくり考える余裕がないので参加した。ヒントのようなものはあった」と振り返り、西野塾長は「いろいろな事例をその立場で考えることで視野が広がり、応用力が付いたと思う。地方の人材育成の取り組みとして続けたい」と地域活性化に革新塾を生かしたい考えだ。

いたことが言える」組織ができたなら素晴らしいが、実際に言つと上司に飛ばされる。黙っていた方が出世するが、

同研究開発センター長は「経営学の教員がいる法政大の協力は大きい」と継続を期待している。



13日に始まったシャベット氷を使った輸送実験を行う古屋准教授(中央)

魚体の鮮度低下に伴い高く

間後の鮮度を分析した。

翌日、道立工業技術セン

ター(函館)で、水揚げ24時

間に保冷剤か水を入れて発送

した。いずれも発泡スチロール

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

入れて活締め②水揚げ後自然

死一の2通りの鮮度を比べ

た。①シャベット氷に

魚の鮮度より長持ち

室工大実験 シャベット氷活締め

輸出向け保冷輸送も着手

なる科学的指標「K値」(%)を調べたところ、シャベット氷で処理したサケの平均は25.6%、氷と水で満たされた船倉に入れて死んだ通常の水揚げのサケは同36.8%。シャベット氷処理のクロロイは24時間後のK値が同6.4%で、水揚げ後に自然死させた魚体の同6.7%より低めだった。

サケ、クロロイともシャベット氷処理は短時間で締めためエラに血がどまり、風味を悪くする身に残った血は少なかった。

今月13日には輸送面でのシャベット氷の効果を究極めるため、保冷輸送実験を始めた。発泡スチロールの箱にシャベット氷と室蘭産のマダラ、スゲソウダラをそれぞれ入れて冷蔵庫内で保管し、19日に同センターで鮮度などを測る。

すり身加工などで需要が見込まれる韓国への輸出を想定した実験だ。

古屋准教授「水産公共政策」は今春、漁業者らを対象にした結果報告会を予定しており、「シャベットに魚を入れるだけで魚を活締めに行けるなど、漁業者の作業負担の軽減につながる」と鮮魚の物流に革新をもたらす新しい氷の意義を話している。

昨秋、室蘭工大がシャベット状の水を使って素早く活締めしたサケとクロロイの出荷先までの鮮度の状態を調べた実証実験の結果がまとまった。24時間後の鮮度は、いずれも従来の処理方法より、シャベット氷で処理した魚体の方が鮮度が良かった。今月13日からは、魚種を換え、砕氷の代わりにシャベット氷を活用した輸送実験にも着手。さらに実証データを積み重ねる。(相沢 宏)

経営を学ぶ場提供

学官金室蘭が新展開

来月13日から「胆振次世代革新セミナー」

室蘭市内4団体の若手でつくる「ものづくり企業活性化チーム・学官金室蘭」は来月13日から3回の「胆振次世代革新セミナー」を開く。チームは昨年、胆振次世代革新塾を立ち上げ、将来の地域経済を担う人材の学びと交流の場を提供。今年も開講を目指しており、独自の専門家派遣なども検討。今回のセミナーを入り口として新年度事業を広く展開したい考えた。

セミナーは、製造現場の課題を具体的な事例を元に解決する手法を学ぶ内容で無料。室蘭市官の森町の蓬岫殿を会場に2月13日、3月11日、4月10日の3回シリーズで開催する。講師は国内外の企業250社以上にコンサルタント経験を持つ堀口敬氏を招く。

具体的には現場改善のノウハウや工程改善、工場診断の手法を実習形式で学べる。希望企業は専門家の無料派遣も受けられる。定員70人。申し込みは室蘭市産業振興課、電話0143・25局2704番、企業誘致担当小川さんへ。

同チームは昨年、西野製作所の西野義人社長を塾長に、従来の経営革新塾を廃展させて次世代革新塾を開講。若い世代や企業人を中心にした学びの場を提供した。昨年8月から11月に7回の講座を開き、会社役員や中堅社員ら約30人が討論などを通し、人材の活用方法、会社組織の在り方、現場の対応力などを学んだ。

今年も同チームは5月から同塾を開校させたい意向で「セミナーは前段として

開き、塾に関心を持ってもらいたい。製造業だけでなく食関係など広く参加に期待している」という。加えて新年度はものづくりの現場などに専門家を派遣する

独自事業も模索している。同チームはテクノセンターと室蘭信用金庫、室工大、室蘭市産業振興課の担当者で構成。国の中小企業向け補助金の獲得に向けた手続

き支援、直接訪問活動による経営支援に取り組むとともに、同塾の開催など人材育成にも力を入れている。

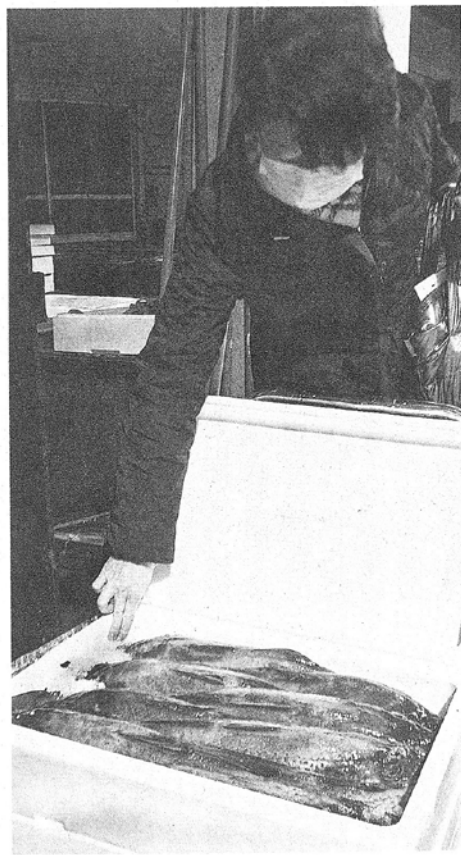
(粟島暁浩)

室蘭発海の幸 香港のすし店へ

室工大など輸出実験開始

室工大などは、室蘭沖で取れたマダラやスケソウダラなどの水産物を香港の高級すし店へ個別輸送する実証実験を始めた。鮮度の状況や仕入れる際の好ましい処理方法、調理の仕方などを、香港の飲食店にアンケートで答えてもらう。香港の食文化などを考慮して効果的な流通手法を探り、室蘭の海の幸を売り込む、海外販売戦略の研究だ。

(芝垣なの香)



香港へ発送するスケソウダラの状態を確認する古屋准教授

処理方法スマホで調査

実験は室工大と苫小牧高専の共同研究で、北海道開発協会札幌の研究助成金を受けて実施。室蘭漁協などが協力している。

25日に室蘭沖で取れたマダラとスケソウダラを約8キロずつ用意し、26日に粒の小さいシャー

ベット状の水を使って梱包。27日、香港にある日本人経営のすし店2店舗へ、加工しない状態で発送する。

輸送した鮮魚について、すし店へアンケートを行う。「加工を入れない状態」頭と内臓を取

法、仕入れ時の改善案などを率直に答えてもらう。迅速に回答を得られるよう、スマートフォンで回答できるようにした。

昨年11月、室工大の古屋准教授(水産海洋公共政策)らが香港出張の際、これらのすし

り除いた状態」など、仕入れ時の好ましい処理方法を尋ねるほか、荷物到着時の鮮度や実際の調理の

店に道産の水産物の印象などを聞き取り調査したことが縁。2月10日には、知名度が上昇し始めた「蘭扇」ブランドの活ホタテも、室蘭港絵鞆地区で水揚げし、同様に2店舗へ輸送する。

古屋准教授は「香港では『北海道』はブランド。発送前の処理方法や適切な輸送方法を研究し、いずれは漁協から個別の店へ輸出できるような可能性を探りたい」と話している。

週間わくわくニュース

室工大の底力

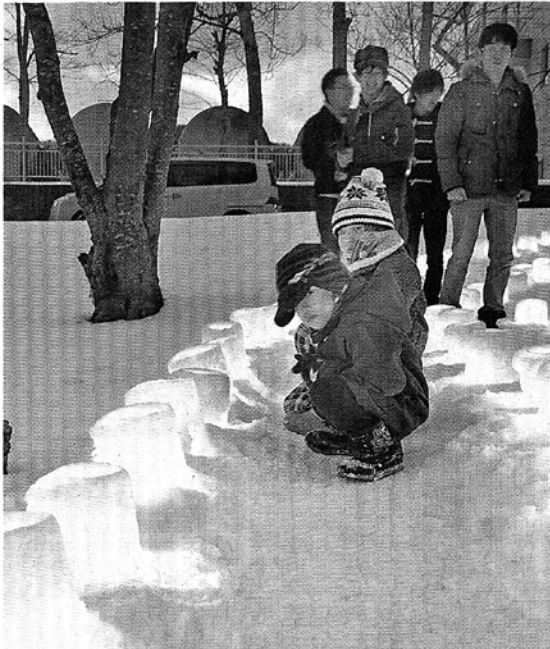
読者の皆さん、お元気ですか。西胆振でも何となく日脚が伸びるのが感じられるようになりました。少しずつ春が

海の幸 香港に「直送」

室蘭の海の幸を、香港市場に売り込むきっかけになりました。

室工大が、室蘭産のママラやスケソウダラなどの水産物を海外販売する戦略を考え

1月24日～30日



10000のまっすぐの明かりに「ゆきあかり」会場 25日夜、高砂5丁目公園

近づいているようです。さて、今週は室蘭工業大学の活動が注目されました。室工大の底力を示すものでしょう。地域に根ざした取り組みの一端を紹介します。

(室蘭報道部長 目黒雄司)

るのが狙いです。

実験は、シャーベット状の水を使って魚を冷やし香港のすし店に輸送します。

到着時の鮮度や魚を加工して送った際の調理法などをアンケート調査します。

調査には室蘭漁協や苫小牧高専、北海道開発協会が協力しています。

地域照らすゆきあかり

室工大の学生たちも地域で頑張っています。

住民の意見を取り入れて改修された高砂5丁目公園で、学生と住民と一緒に雪を楽しむイベント「ゆきあかり」が開かれました。

近所の小学生がそり遊びや雪だるまづくりを学生たちと一緒に楽しみました。

夜になると雪像が設けられた公園内に約1千のキャンドルがともり、会場全体が幻想的な雰囲気になりました。工大生が実行委をつくってイベントを開くのは、昨年に続いて今年が2回目です。今回も多くの住民が会場づくりに協力しました。イベント開催は住民と学生

若者の視点で 旅行冊子発行

来年3月の北海道新幹線開業に向け、室工大の学生らが考案した旅行冊子が発行されたことも見逃せません。

リクルート北海道じゃらんがつくった冊子「祝卒 なかま旅」で5千部発行しました。道央圏の大学や観光施設で無料配布されています。

卒業旅行向けの宿泊プランなど、若者の視点で編集されているのが特徴です。

登別温泉の鬼の像や、洞爺湖畔の巨大な顔の像、室蘭のボルタ人形など、西胆振の魅力が美しい写真で分かりやすく紹介されています。

アイデアを出したのは室工大のほか小樽商大、札幌市立大の学生28人。昨年6月から勉強会や会議を重ね、企画を話し合う合宿も行いました。新幹線の開業効果を西胆振にたくり寄せ、マチづくりに生かすには、若者のアイデアが欠かせません。

室工大の学生たちの活躍は地域を元気にする源です。大いに頑張ってください。

空飛ぶ(ホタテ)蘭扇

室蘭漁協と室工大

香港へ直送「輸出試験」

室蘭漁協(室村吉信組合長)と室工大の古屋温美准教授(水産・海洋公共政策)らは10日、室蘭漁協のブランド活ホタテ「蘭扇」を香港の寿司店に直送する輸出試験をスタートさせた。海外への

販路拡大を目的に、ホタテの鮮度保持や活力の状態で調査し、3月中旬には古屋准教授らが現地で試食し、関係者とヒアリングを行う。

(成田真梨子)



輸出試験で室蘭から香港へ直送された室蘭漁協のブランド活ホタテ「蘭扇」

「蘭扇」は殻長12・5センチ以上の3年貝。大粒の貝柱と貝質の良さが高い評価を受け、贈答用として首都圏などに出荷している。昨年11月1日、道産品の輸出拡大と物流活性化を目指し、道開発局などで構成する「北海道国際輸送プラットフォーム推進協議会」が香港で試食商談会を開催。室蘭からは「蘭扇」が直送されていた。古屋准教授はこれに同行し、室蘭から香港までの輸送中の温度変化を確認したほか、現地の飲食店関係者からホタテの品質について聞き取り調査を行った。

「出荷時と変わらない鮮度を保持していた」(古屋准教授)ことを確認し、関係者からは「鮮度は築地から入るホタテ貝と比べて格段の差があり、蘭扇の品質の良さに驚いた」などの声が寄せられ、手応えをつかんだ。室蘭漁協では2年貝を2012年(平成24年)から韓国へ輸出しているが「蘭扇」の海外直送は、この時が初めてだった。今回は寿司店2店舗に4きずつを直送した。店への到着予定はあす12日の午前中。古屋准教授は3月中旬の試食やヒアリングを通して「味の比較やどういう料理に使えるか、金額などより具体的な話を聞きたい」としており、室蘭漁協が主体的になって、海外の個別店舗に輸出できるか可能性を探る方針だ。

今回の試験は、室工大と

苫小牧高専による「輸出先の風土を考慮した北海道産

水産物の海外販売戦略に関する研究」としても位置付けられている。

企業支える「学・官・金」

発足1年 補助金獲得支援、29事業

西胆振の中小製造業の経営力アップを目指し、2013年11月に官民4団体で発足した「ものづくり企業活性化チーム 学・官・金 室蘭」が、地域企業の公的補助金獲得を精力的に支援している。チーム4団体のいすれかが携わった補助金事業は、発足1年余りで計29件。着実な実績の背景には「地域の各団体が協力した、道内でも珍しい中小企業支援の体制」(北海道経済産業局)がある。(石川泰士)

「学・官・金」を設立したのは室蘭市と室蘭工大、室蘭テクノセンター、室蘭信用金庫。「意欲も技術もあるのに自己資金が乏しく、新ビジネスに挑めない



中小企業が多い」(同信金の高木創さん)という難題を克服するため、公的補助金の活用呼び掛けと、獲得支援に取り組んだ。獲得できた29件は、いずれも中小企業庁が12、13年度の補正予算で執行した通称「ものづくり補助金」(補助率3分の2、上限額は通常1千万円)。生産効率を高める工作機械の導入や、新商品の研究開発などに活用された。総事業費は、企

業側の自己負担額を含めて約6億円に上った。

「学・官・金」の活動が



打ち合わせに臨む「学・官・金 室蘭」の担当者。20、30歳代が活動の原動力になっている

軌道に乗った背景には、主に二つのポイントがある。

一つは、設備投資や新事業の可能性がある中小企業のリストアップだ。約100社を候補に挙げ、個別の面談で潜在的な資金需要を掘り起こした。二つ目は、説得力のある申請書類作りのアドバイス。市経済部の小川雄亮さんは「写真やグ

ラフを有効に使い、売り上げ目標を数値化すると審査のポイントは高まる」と語る。

行政制度に精通した市、技術力を持つ室工大とテクノセンター、金融に強い室蘭信金が「チーム室蘭」となってスクラムを組み、成果を挙げつつある。13年度補正予算の「ものづくり補助金」に限れば、室蘭信金の申請件数は16件と、道内信金でトップだった。

経産局は「企業の補助金申請は、行政や銀行が単体でかかわるのが一般的。複数機関が連携し、地域を挙

人材育成にも重点

来月無料セミナー

「ものづくり企業活性化チーム 学・官・金 室蘭」は、補助金獲得支援とともに中小企業の人材育成にも力を入れる。製造現場での問題解決能力の向上を狙った、参加費無料のシリーズ講座「胆振次世代革新セミナー」は今年が初開催。2月4日の月1回、室蘭市宮の森町の中嶋神社蓬峽殿で

開催している。昨年7回行われた有料の経営講座「胆振次世代革新塾」の入門編で、受講料を無料化して門戸を広げた。講師は室工大出身の経営コンサルタント堀口敬さん。実習形式で「ムダ取り」「工程改善」「工場診断」などのノウハウを学ぶ。

次回は3月11日午後3時から。受講希望者は市産業振興課 ☎0143・25・2704へ。(石川泰士)

改訂版を決定

室 蘭

室蘭追置地域マリンビジョン協議会の2014年度(平成26年度)報告会が27日、室蘭市舟見町の室蘭漁協で開かれた。改訂版のマリンビジョン計画を決定し、協議会の規約などを変更。会長に室村吉信・室蘭漁協組合長を選出した。

改訂版は、追置漁港に特化し、2007年(平成19年)に策定された現計画をベースにして体系を整理。室蘭全体が対象の「室蘭地



改訂版計画を決めるなどした報告会

域マリンビジョン計画」に改め、漁業生産を支える人との場の確保、活魚出荷の推進、多彩な海や漁業とのふれあい交流、安心・安全な漁業地域づくりなどを新たに盛り込んだ。計画期間は24年までの10年間。

計画変更に伴い協議会の名称を「室蘭地域」に改め、漁業振興、加工流通、まちづくりの3部会を構成する検討会を設ける。室村会長は「定期的にフォローアップして実効性を確保することが大切。まち全体が元気になるようにしたい」と述べた。

今後に向けて、釧路開発建設部築港課の佐々木洋介漁港対策官が「フェイスブックを活用した地域水産業のPRの手法」、室工大地域共同研究開発センターの古屋温美准教授「鮮度保持実験、模擬輸送実験に係る結果概要報告」と題して事例を紹介した。

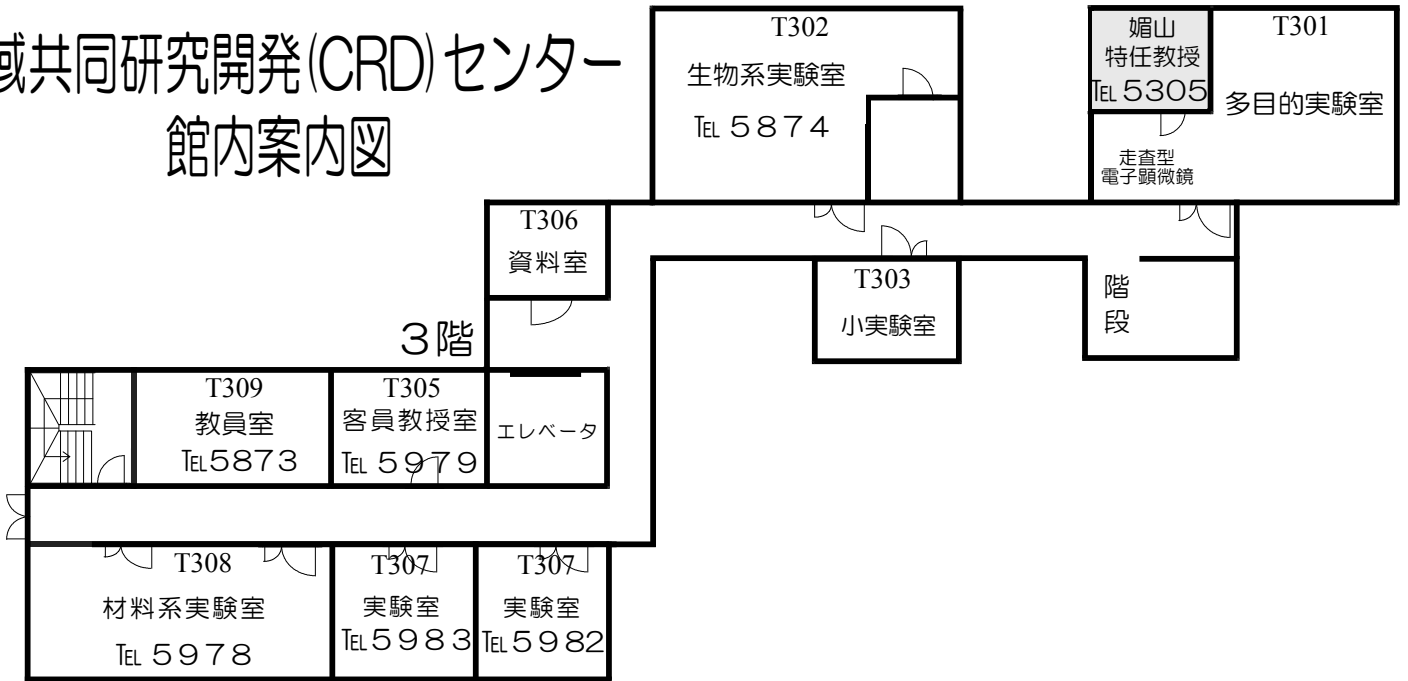
佐々木対策官は「投稿記事の閲覧で一定のロコミや波及効果が確認できる。協議会のメンバーに管理者権限を与えて記事を発信することで事務局の負担が図れ

る」、古屋准教授は「シャーベット氷を用いたものは魚体の損傷が見られない。細菌数はシャーベットを魚体の上にかけたものが低い傾向にある」などと説明。出席者約40人が関心を高めていた。

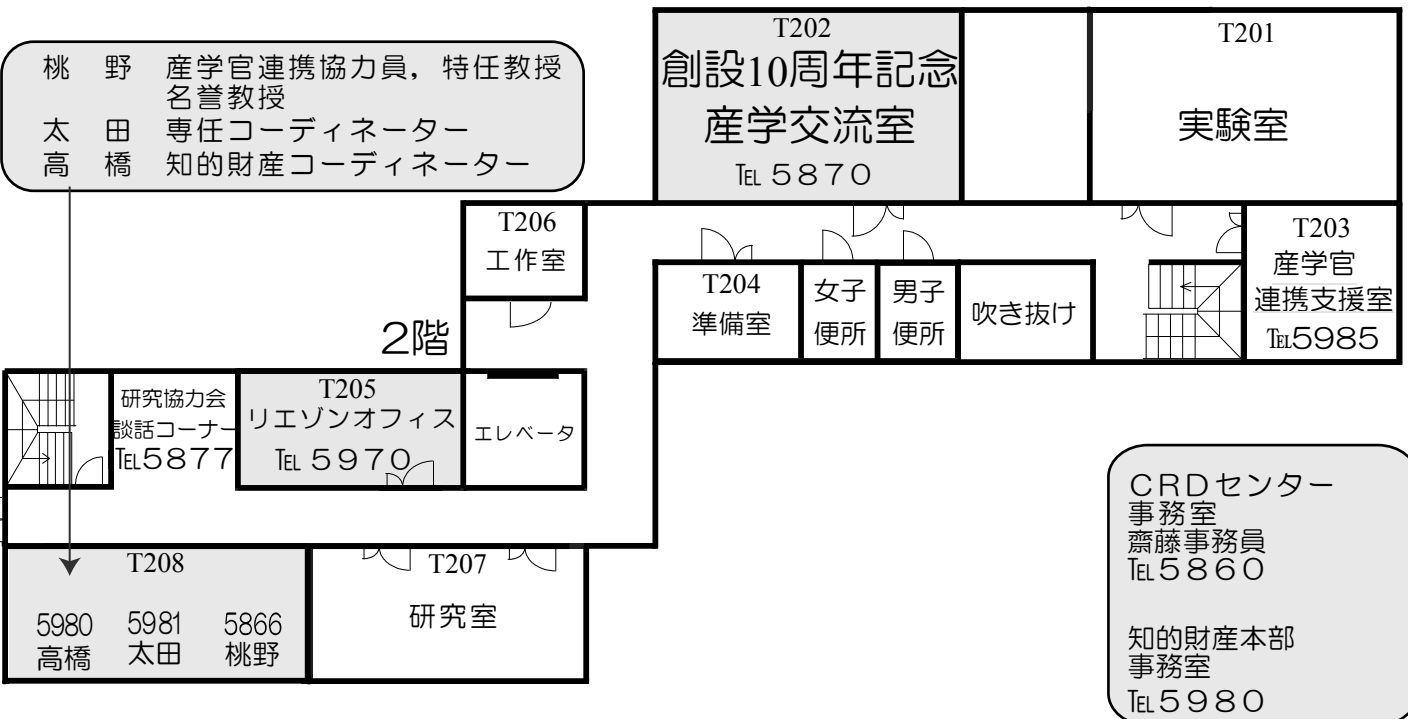
(有田太一郎)

地域共同研究開発(CRD)センター 館内案内図

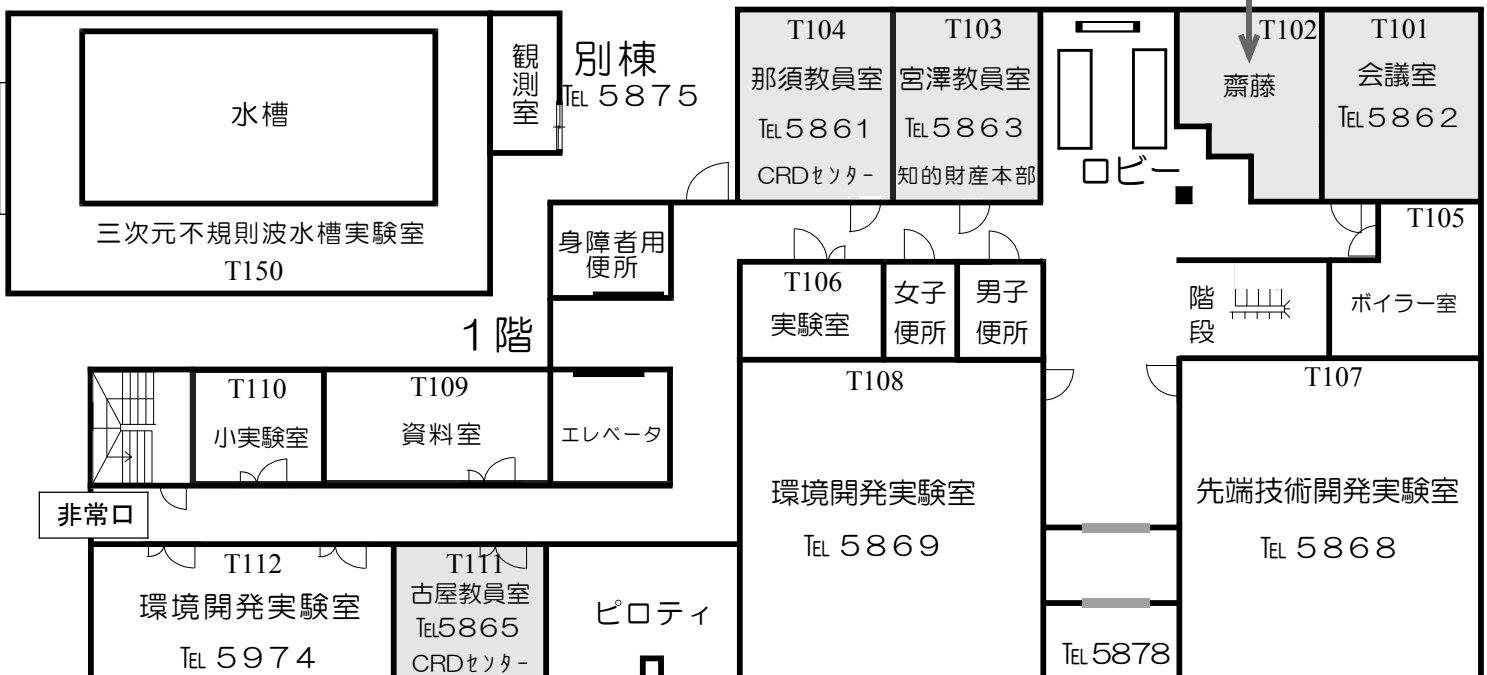
3階



2階



1階





室蘭工業大学
地域共同研究開発センター
〒050-8585 室蘭市水元町27番1号
URL <http://www.muroran-it.ac.jp/crd/>
E-mail: crd@mmm.muroran-it.ac.jp
TEL. (0143) 46-5860
FAX. (0143) 46-5879